

市民のコミュニティに関する意識・行動調査の結果概要

1. 調査の目的

本調査は、地域コミュニティの活性化を図るための基礎資料とするために、金沢市と金沢大学文学部社会学研究室的共同研究として実施いたしました。具体的には、地域コミュニティの活性化を図るために、地域社会における活動や組織についての地域住民の意識と行動を知ることが目的としています。

2. 調査の概要

2. 1 調査の設計

調査は以下のとおり設計されました。

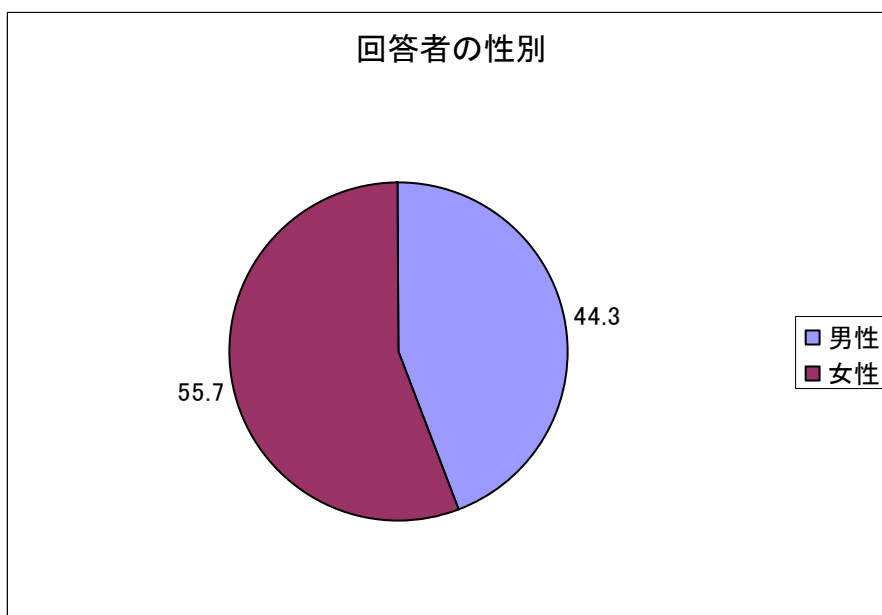
- (1) 調査地域 金沢市内全域
- (2) 調査期間 平成 18 年 9 月 20 日～10 月 11 日
- (3) 調査方法 郵送調査法（調査票郵送送付・回収、調査対象者自記入式）
- (4) 調査対象 平成 18 年 4 月 1 日時点において満 20 歳以上 80 歳未満の金沢市民 1500 人
- (5) 対象者抽出 住民基本台帳および外国人登録名簿より無作為抽出

2. 2 回収率について

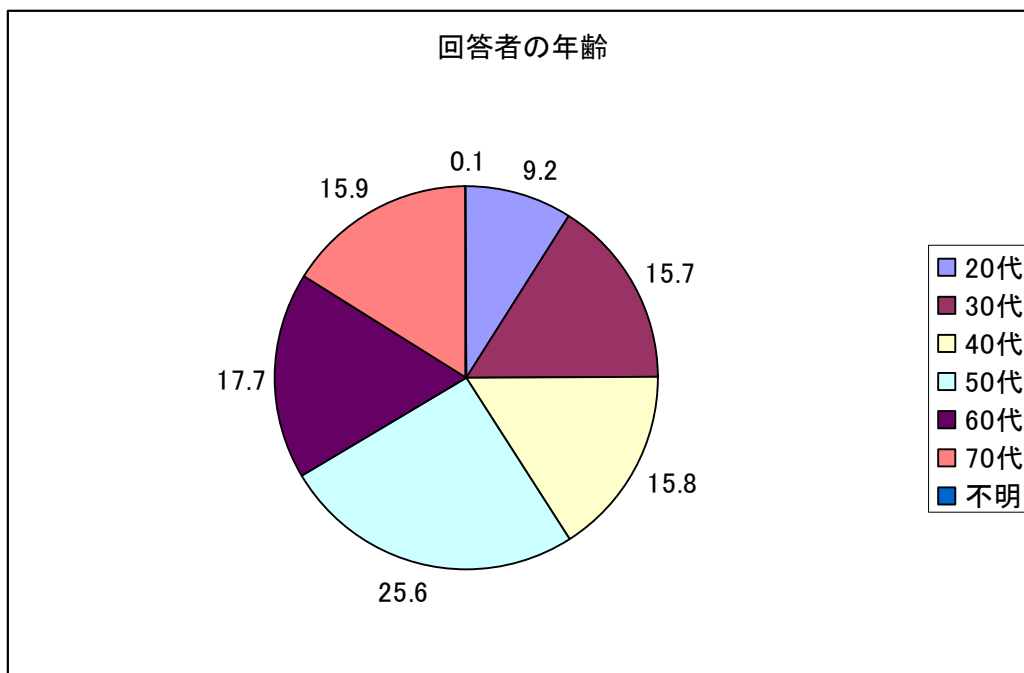
本調査の調査票回収数は 803 票、有効回収数は 785 票、有効回収率は 52.3%となっています。なお、あて先不明などで調査票が調査対象者に届かず、返送されてきたものが 9 票、受け取り拒否で返送されてきたものが 3 票ありました。

2. 3 回答者について

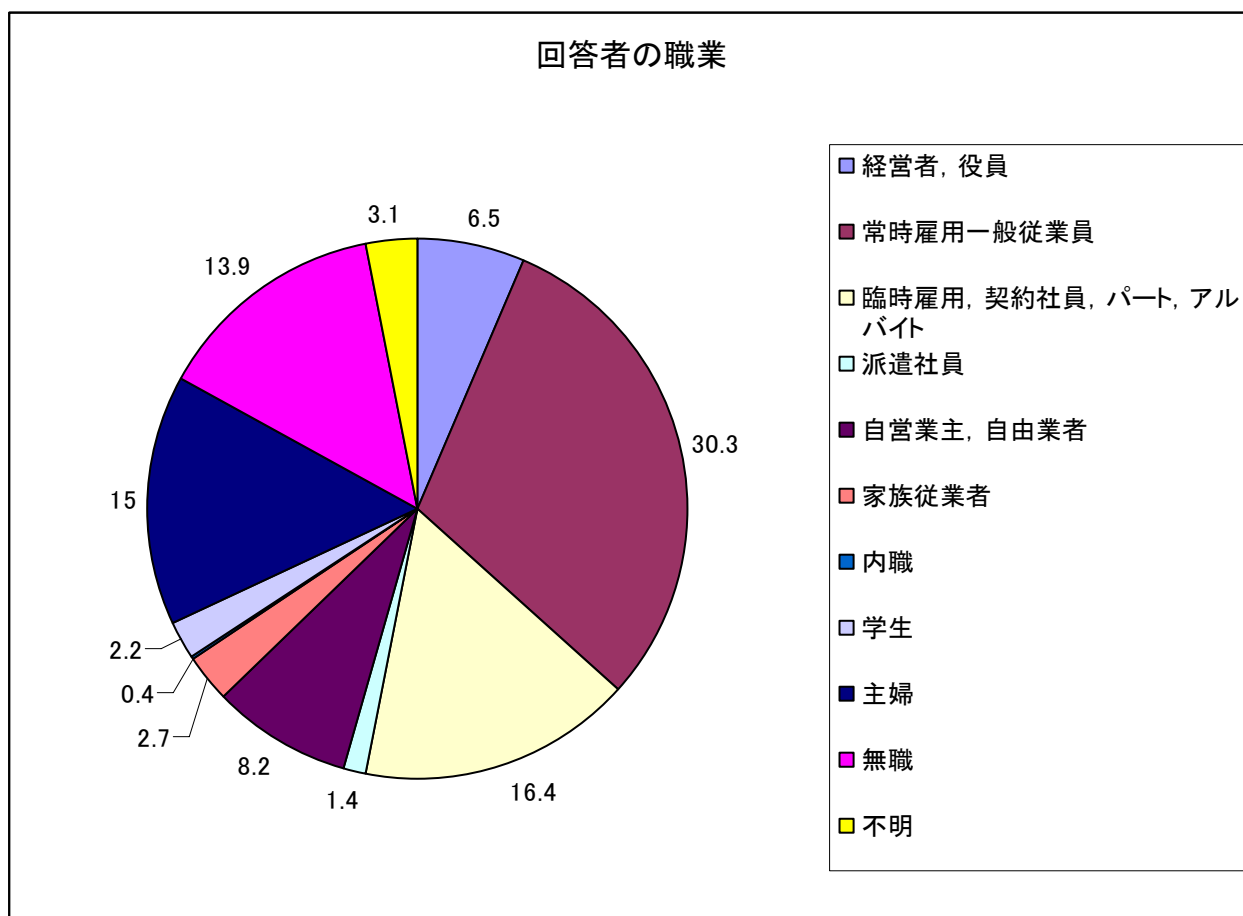
回答者の属性（性別、年齢、職業）は、図のとおりとなっています。回答者は女性が 55%とやや多くなっています。



20代の回答が他の年齢層に比べて、顕著に低くなっています。若年層の回収率が低くなる一般的傾向が、本調査においても現れています。



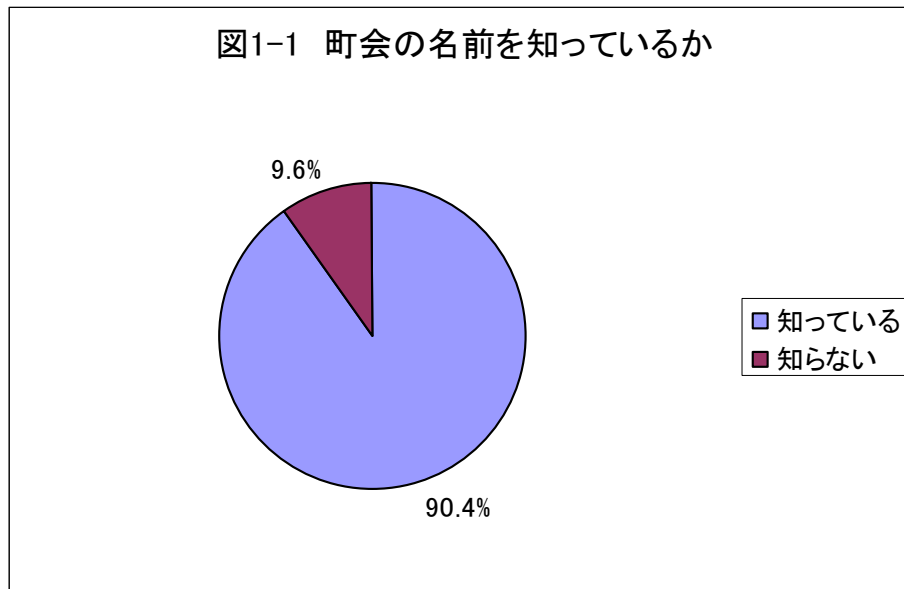
常時雇用の一般従業員の方が3割を占めています。また臨時雇用、パートなどの方は16%ほどとなっています。また専業主婦の方も15%を占めています。



3. 調査結果の概要

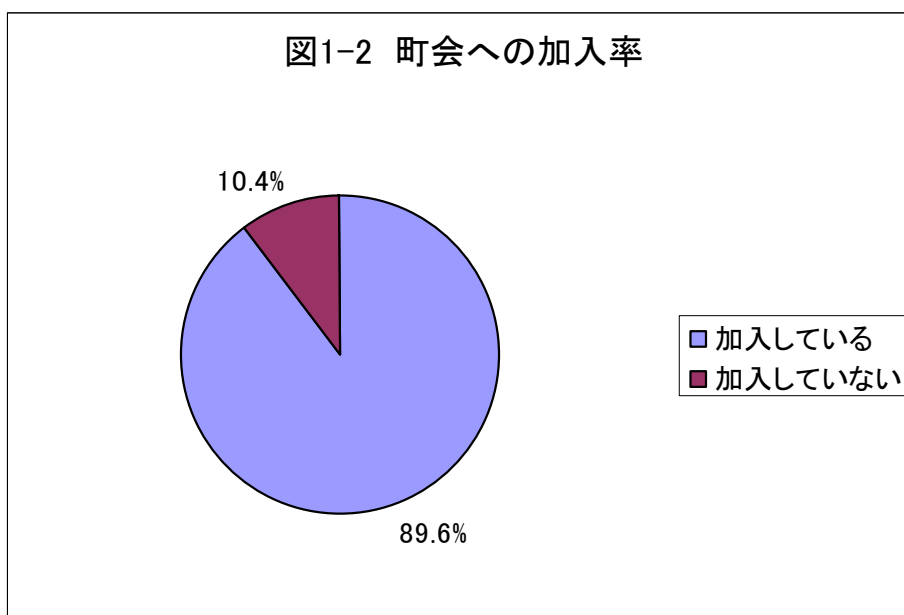
問1 (1) あなたは、お住まいの地域の町会名をご存知ですか。

居住地区の町会名認知についての項目です。知っていると答えた人が9割と、ほとんどの人が自分の居住している地区の町会の名前を知っています。



問1 (2) あなたのご家庭は、その町会に加入していますか。

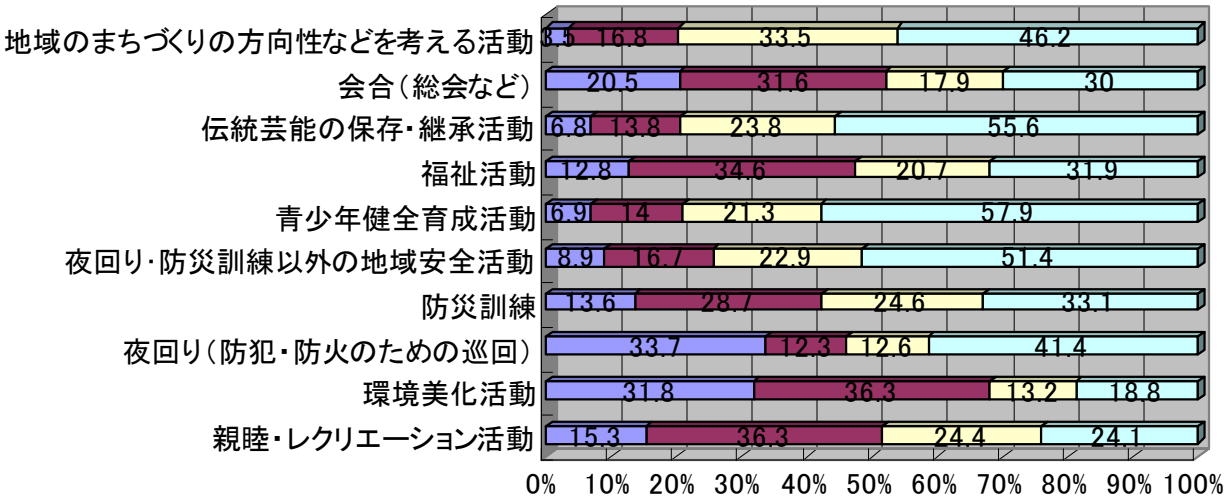
9割近くの家庭が町会に加入しています。金沢市では依然として町会の影響力の強いことがうかがえます。



問1 (3) 町会に加入していると答えた方のみお答えください。あなたは次の町会の行事や活動に、どの程度参加していますか。

市民が具体的にどのような町会の活動に参加しているかを見えます。最も多くの人に参加しているのは環境美化活動です。この種の活動は日々行われており、比較的参加しやすいためだと思われます。次に総会などの会合、親睦・レクリエーション活動と続きます。注目すべきは、乳幼児、高齢者、障害のある人への支援、募金などをする福祉活動への参加が多いことでしょう。これらの活動は大変な仕事が多いにもかかわらず、町会の活動として参加している人が5割近くいます。

図1-3 町会の行事への参加率

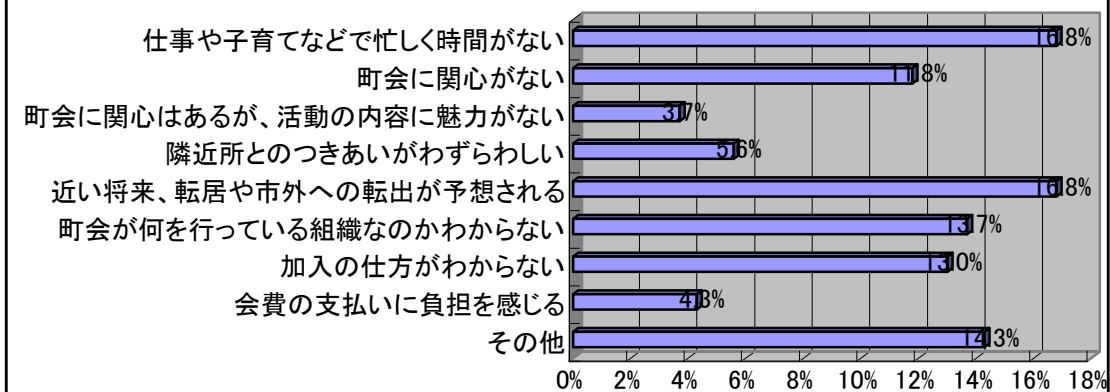


■ よく参加する ■ ある程度参加する □ あまり参加しない □ 全く参加しない

問1 (4) 町会に加入していないと答えた方のみお答えください。あなたが町会に加入しない理由は何ですか。

町会に加入しない人にはどのような理由があるのでしょうか。仕事や子育てなどで忙しく時間のない人や、近い将来、転居や市外への転出が予想される人など、個人的な理由で町会に加入できない人が多いようです。次に町会が何を行っている組織かわからない、加入の仕方がわからないなど、町会のしくみが市民によく理解されていないことが未加入の理由として挙げられます。この問題に関しては町会が市民に対する情報伝達を徹底することが解決につながると考えられます。

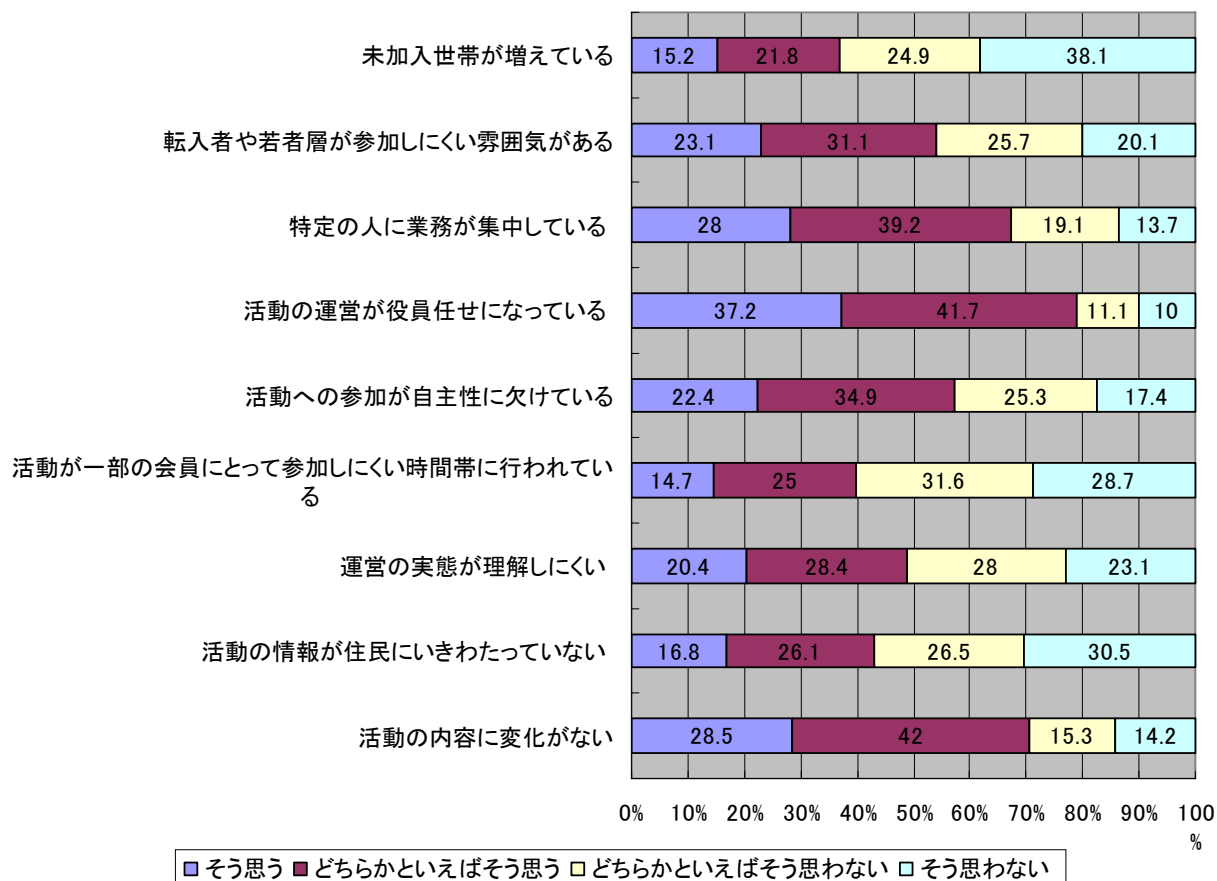
図1-4 町会に加入しない理由



問2 あなたは現在の町会活動に以下のような問題があると思いますか。a～iのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

「活動の運営が役員任せになっている」という回答が、最も多くなりました。また、「活動の内容に変化がない」、「特定の人に業務が集中している」といった問題点も広く認識されているようです。町会活動に多くの会員が携わり、変化することが望まれている現われといえるでしょう。

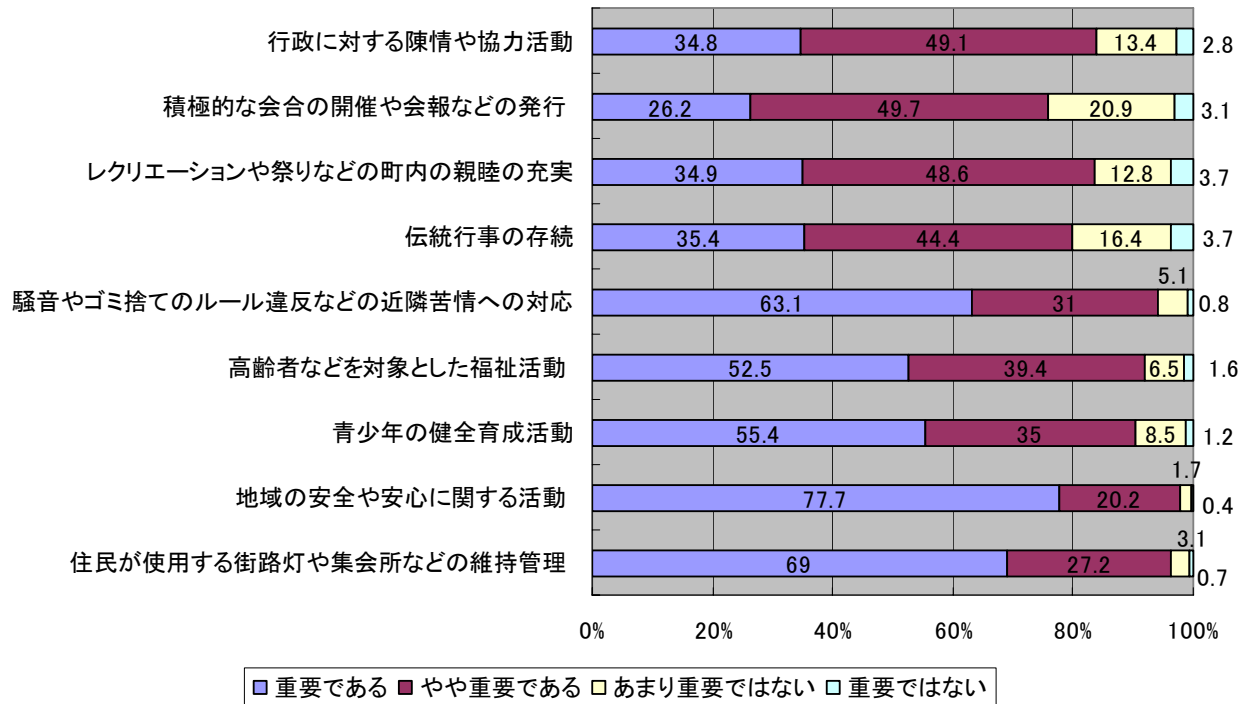
図2 町会活動の問題点認識



問3 以下にあげる町会活動はどの程度重要だと思いますか。a～iのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

「地域の安全や安心に関する活動」を重要であるとする回答が最も多くなりました。また、「住民が使用する街路灯や集会所などの維持管理」、「騒音やごみ捨てのルール違反などの近隣苦情への対応」の2つにも重要であるとする回答が集中しました。町会活動に地域の暮らしのマネジメントが求められているといえるでしょう。

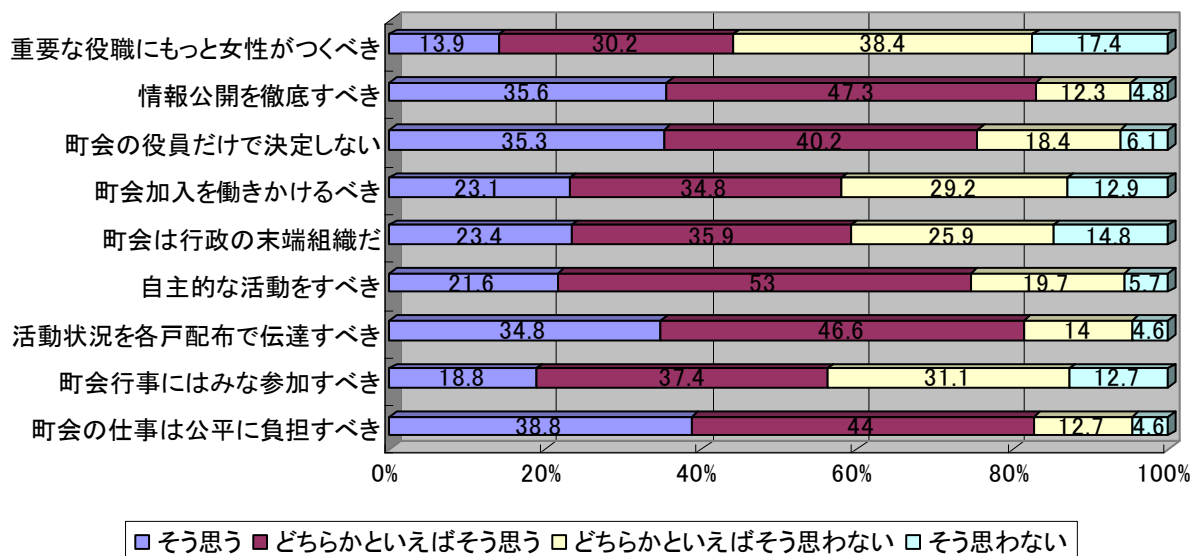
図3 各町会活動の重要度認識



問4 町会に関する以下の意見について、どのように思われますか。a～iのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

問4では、町会の民主化に関する意見について尋ねました。「情報公開」と「町会の仕事の公平な分担」は8割を越える人が支持しており、重視されていることがわかります。逆に、「重要な役職に女性がもっとつくべき」という意見を支持する人がもっとも少なくなっています。どの質問項目も相対的に支持する人が多く、全体的に町会をより民主的な組織にすることが望まれているといえるでしょう。

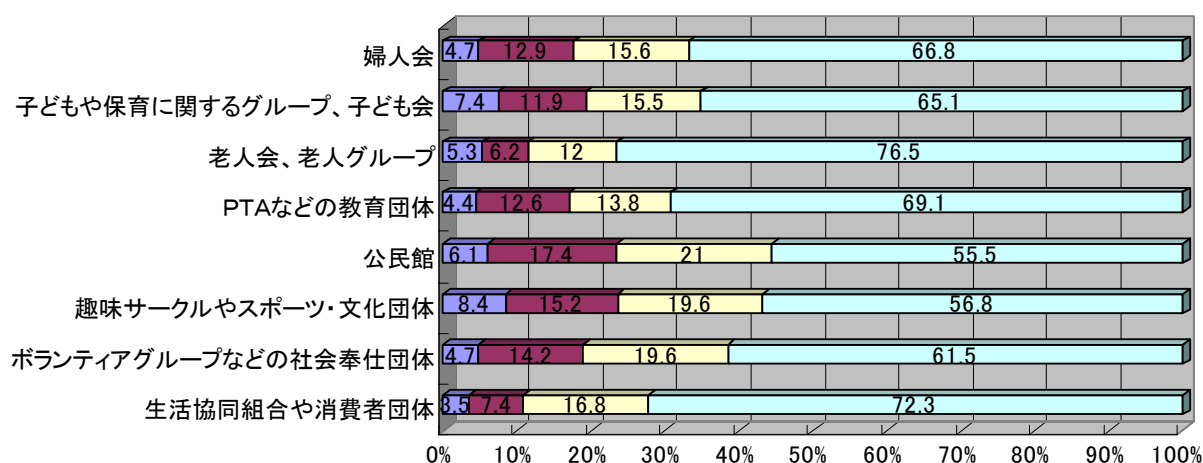
図4 町会の民主化



問5 あなたは、以下のような町会以外の住民組織の活動にどの程度参加していますか。a～hのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

全体的に、積極的に参加している人は少なくなっています。老人会や、生活協同組合・消費者団体にまったくかかわっていない人は特に多くなっています。そんな中、公民館と趣味サークルやスポーツ・文化団体に参加する人は、他と比べて参加者が少し多くなっています。

図5 住民組織への参加頻度

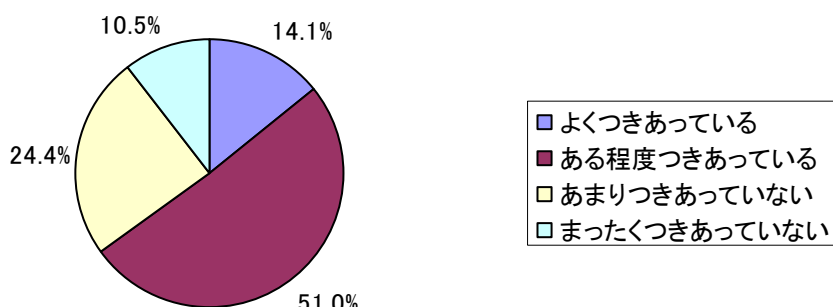


■よく参加する ■ある程度参加する □あまり参加しない □全く参加しない

問6 (1) あなたは日頃、隣近所の人々とのおつきあいをどの程度なさっていますか。1つお選びください。

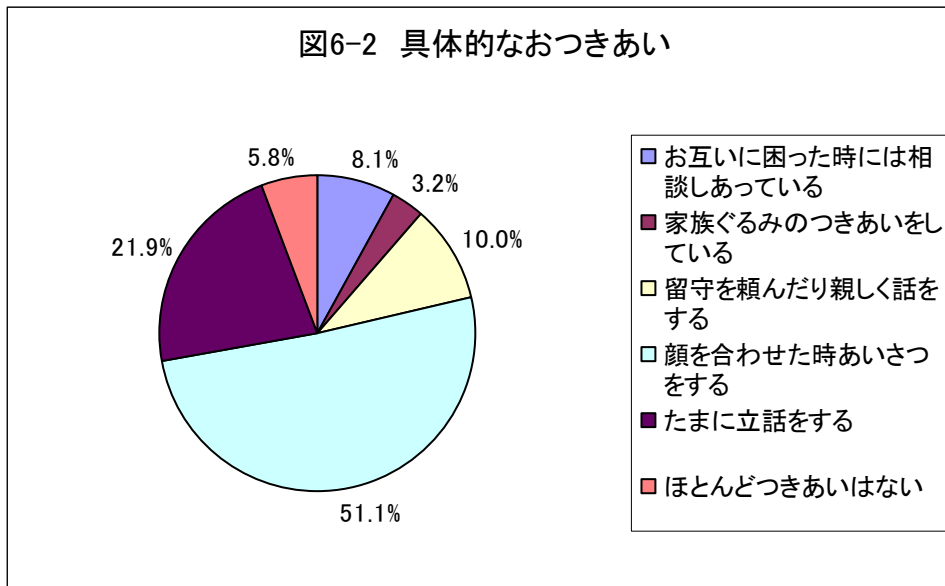
半分以上の方が「ある程度つきあっている」と答えています。「あまりつきあっていない」「まったくつきあっていない」と答えた方はあわせて約35%です。

図6-1 実際のおつきあいの程度



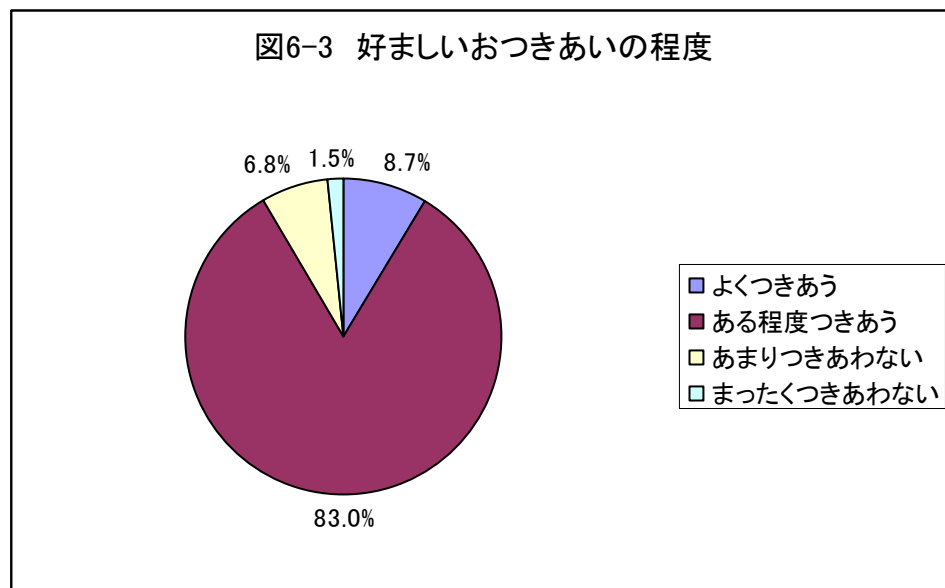
問6 (2) それは、具体的にどのようなおつきあいですか。近いものを1つお選びください。

「顔を合わせた時あいさつをする」と答えた方が最も多く、5割以上を占めています。「家族ぐるみのおつきあいをしている」と答えた方は最も少なく約3%です。約2割の人が「お互いに困った時には相談しあっている」「家族ぐるみのつきあいをしている」「留守を頼んだり親しく話をする」のどれかを選んでいて、親密なつきあいをしている方は少数だといえます。



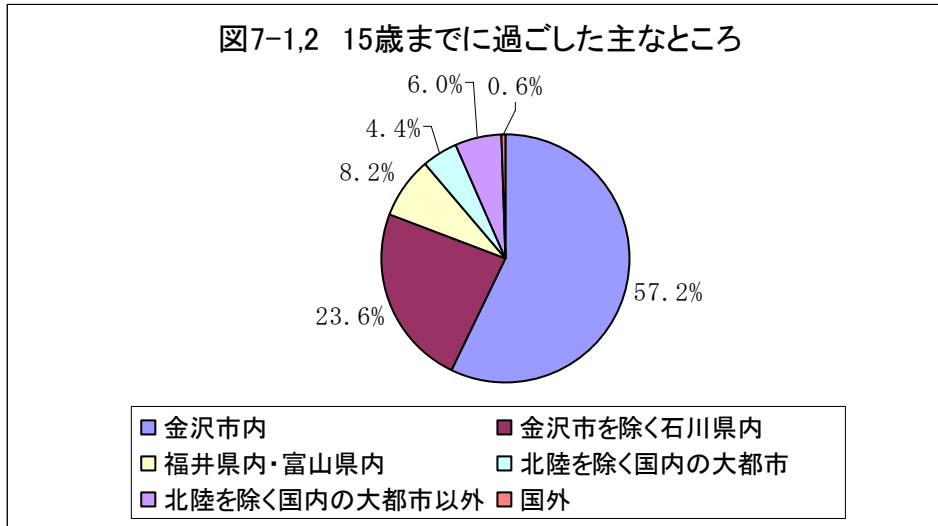
問6 (3) では、あなたにとって隣近所の人々とのおつきあいはどの程度が好ましいと思いますか。

8割以上の方が「ある程度つきあう」が好ましいと考えています。(1)の結果と比べると、その他の3つの選択肢「よくつきあう」「あまりつきあわない」「まったくつきあわない」からそれぞれ「ある程度つきあう」に移動している方が多々いるようです。現状でのつきあい不足を感じている人がいる一方で、現状へのわずらわしさ、もっと距離をおきたいと感じている人もいると考えられます。



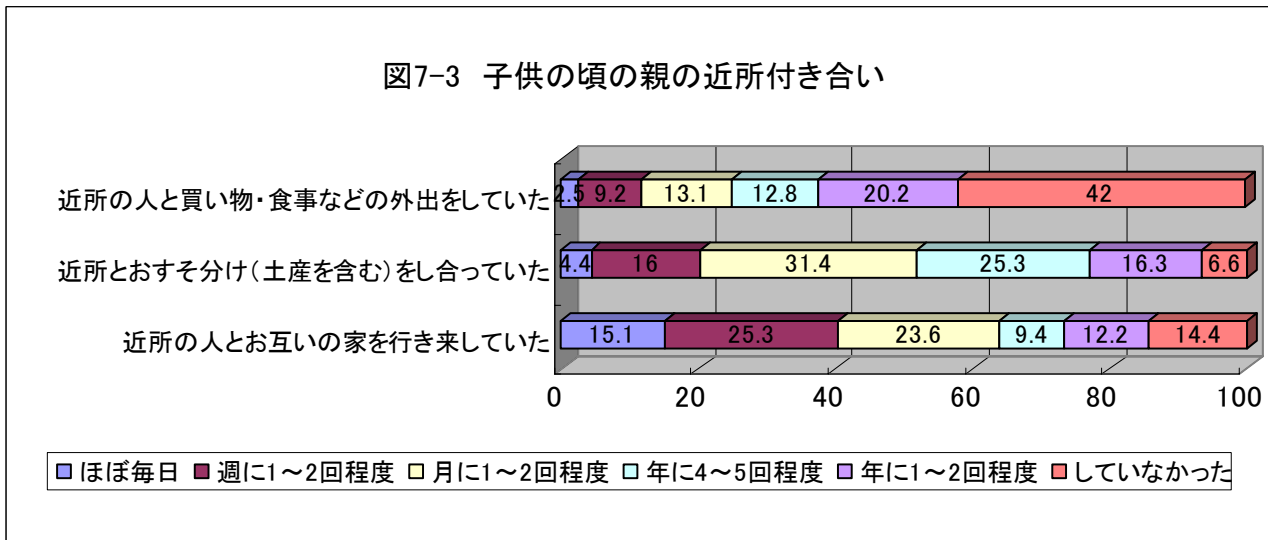
問7 (1) (2) あなたが15歳までに過ごした主なところはどちらですか。

今回の調査対象者のうち15歳時点までを金沢市内で過ごした人は6割弱、金沢市を除く石川県内は2割と、15歳までを石川県で過ごした人は計8割を占めています。北陸を除く大都市とは人口10万人以上の市・特別区を、大都市以外とは人口10万人未満の市町村・特別区を指しており、それぞれ1割弱でした。



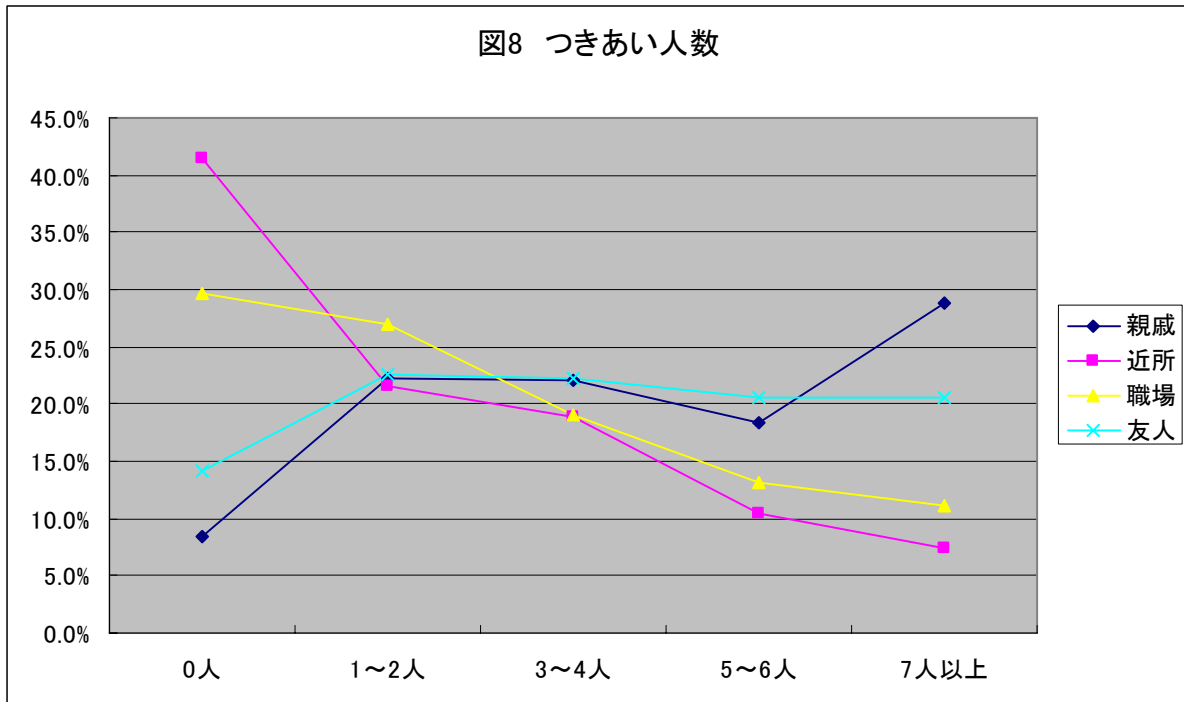
問7 (3) 子供の頃あなたの父親や母親がしていた近所付き合いについてお聞きします。以下のことについて、次の頻度の中からあてはまるものを1つお選びください。

大人になってからの近所付き合いが、子供の頃の親の近所付き合いによって影響されるのではないかと考えられます。年に4～5回程度未満が全体に占める割合は、買い物・食事などの外出で7割を越え、おすそ分けは5割弱、お互いの家の行き来が3割強というように、付き合いの程度によって大きく差が出ていることが分かります。



問8 あなたのおつきあいについてお聞きします。よく行き来したり、または電話やメールをしたりして、親しくおつきあいしている人は何人いますか。

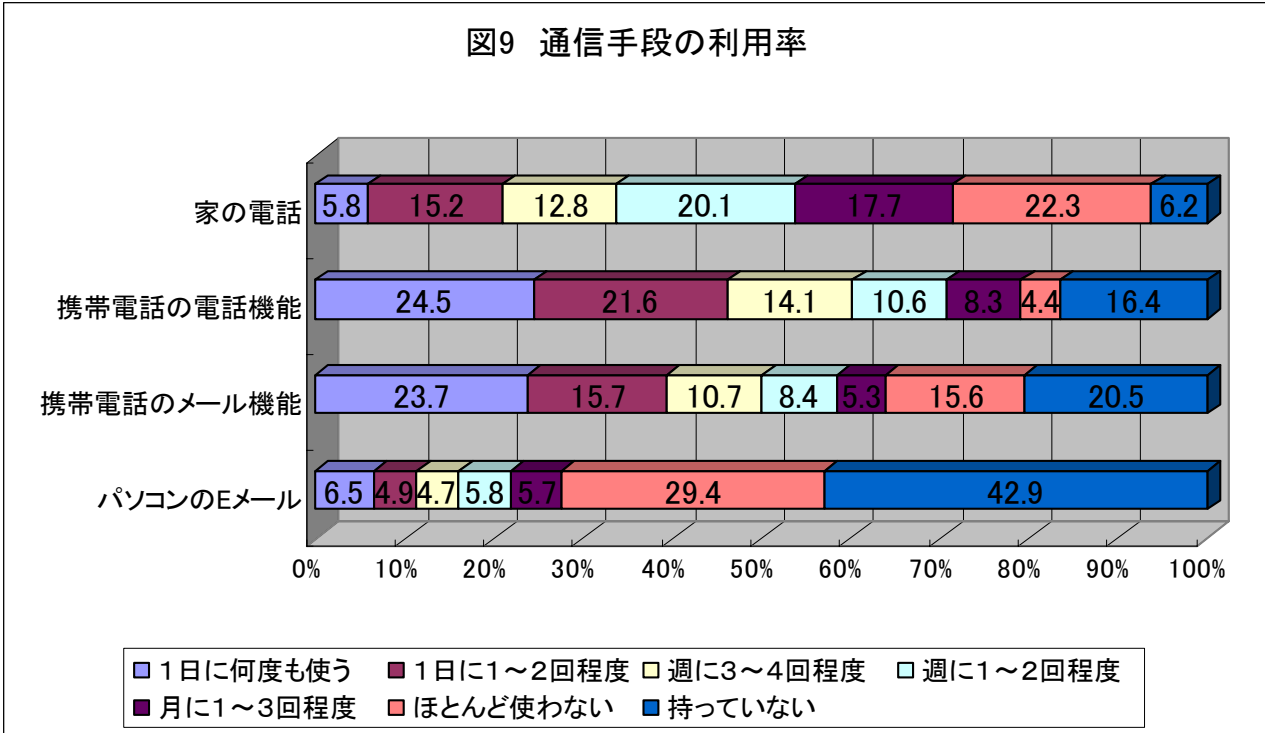
親しいつきあいをしている人数について、「0人」という答えは「近所」では4割を超えていますが「親戚」では1割以下になっています。一方、「7人以上」という答えは「近所」では1割以下になっていますが「親戚」では約3割になっています。近所づきあいは少人数で、親戚づきあいは比較的大人数で行われていると言えるでしょう。



問9 あなたは日頃、以下の通信手段をどの程度利用しますか。a～dのそれぞれに、次の1～6の中からあてはまるものを1つお答えください。お持ちでない方は**8**をお選びください。

「携帯電話の電話機能」と「携帯電話のメール機能」について、「1日に何度も使う」という答えがともに2割を超えており、携帯電話がよく使われていることが分かります。逆に、「パソコンのEメール」について、「ほとんど使わない」と「持っていない」という答えを合わせると7割を超えており、家の電話や携帯電話に比べてあまり使われていないようです。

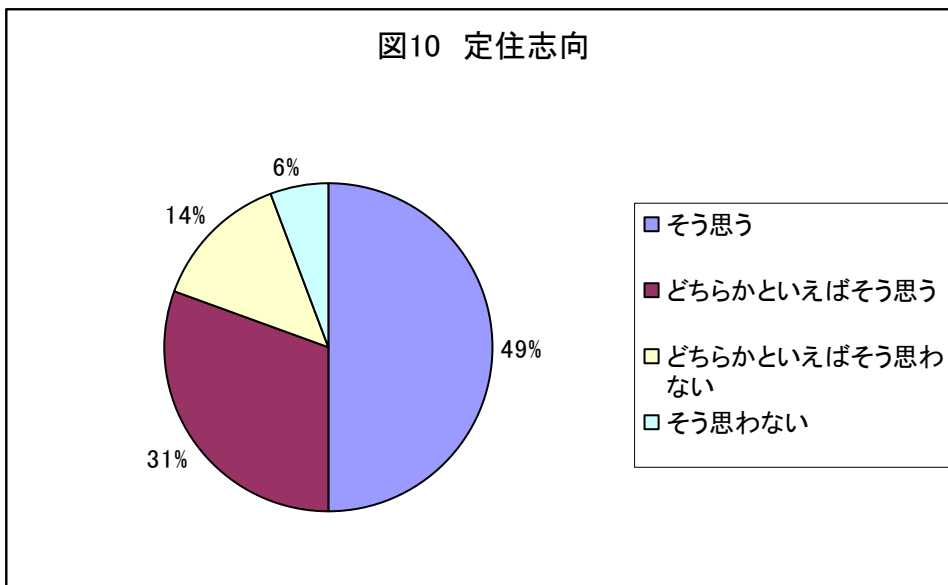
図9 通信手段の利用率



問10 あなたは今後、今住んでいる地域に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

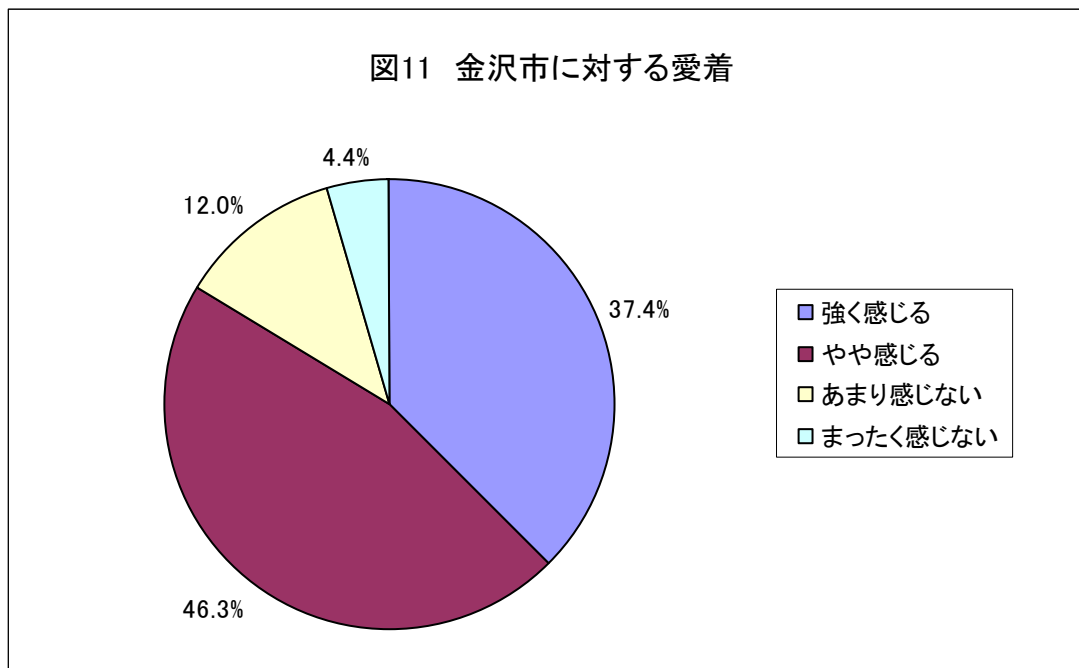
5割近くの方が「そう思う」と答えています。「どちらかといえばそう思う」と答えた方と合わせると8割を超え、ほとんどの人が今住んでいる地域に住み続けたいと考えているといえます。

図10 定住志向



問11 金沢市に対して、誇りや愛着を感じますか。あてはまるものを1つお選びください。

8割を超える人々が金沢市に対して愛着を感じています。どのような要素について愛着を感じているかについては、平成17年度に金沢市が行った「10年間の市の施策を対象とした市民アンケート調査」において分析がなされており、本調査の結果と強く関連しています。この2つの調査結果からも、多くの市民は金沢市に対して愛着を感じているといえます。



問12 地域と子どもの関わりについてお聞きします。「子ども」は中学生までを想定してお答えください。

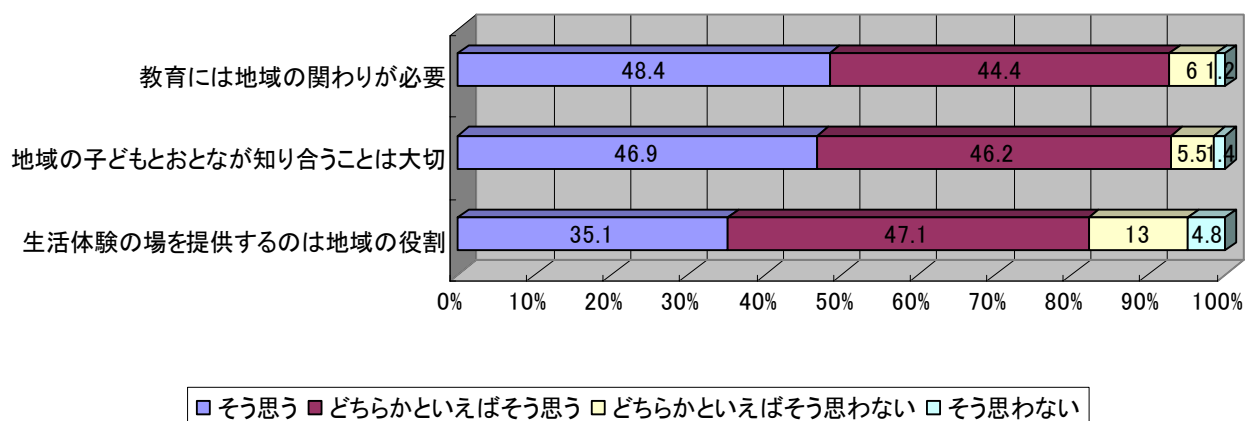
(1) 以下の考え方についてあなたはどのように思いますか。

(2) あなたの実際の行動についてお聞きします。

教育を担う主体としての地域が注目される中、金沢市ではどの程度の人が地域で子どもを育てることに積極的かどうかを見るために、この質問を設けました。

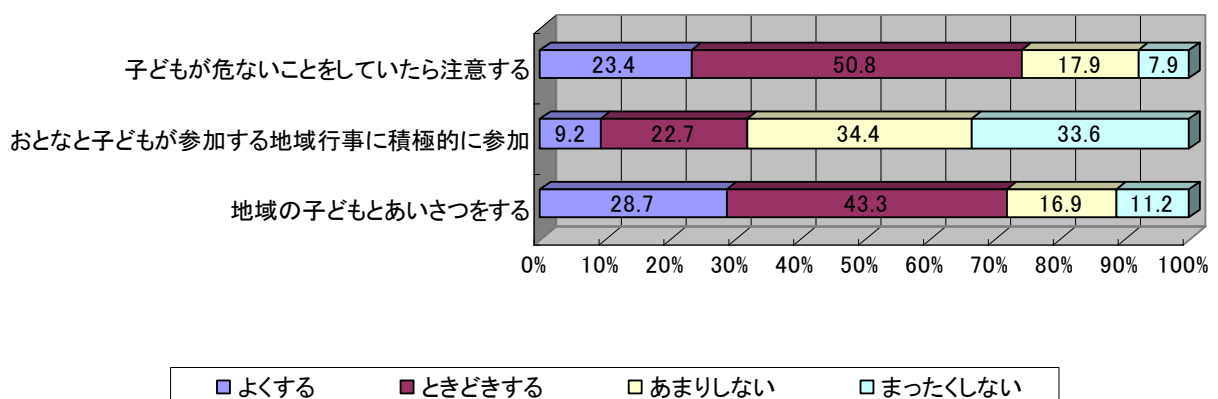
(1) 3項目すべてで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の占める割合が8割を越え、地域による子育てに対する意識はかなり高いものと言えます。教育問題が次々と取り上げられ、地域の教育力が注目される中、金沢市では地域を活かす教育を行なう土台ができていると言えるでしょう。

図12-1 地域と子どもの関わりについての規範意識



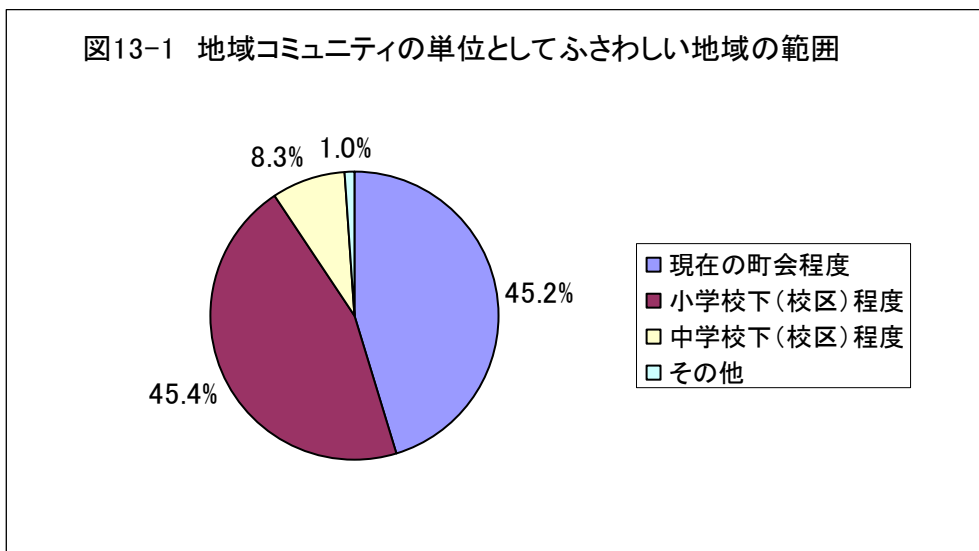
(2) 実際の行動となると、規範意識に比べ積極的な人の割合は下がります。注意やあいさつというごく日常的な関わりについては約7割の人が「する」と答えていますが、地域行事への参加となるとその割合は3割ほどに落ち込みます。どのような人が地域行事に参加し、また参加していないのかを探ることにより、地域による教育のよりよい方向性が見えてくると思います。

図12-2 地域と子どもの関わりについての実際の行動



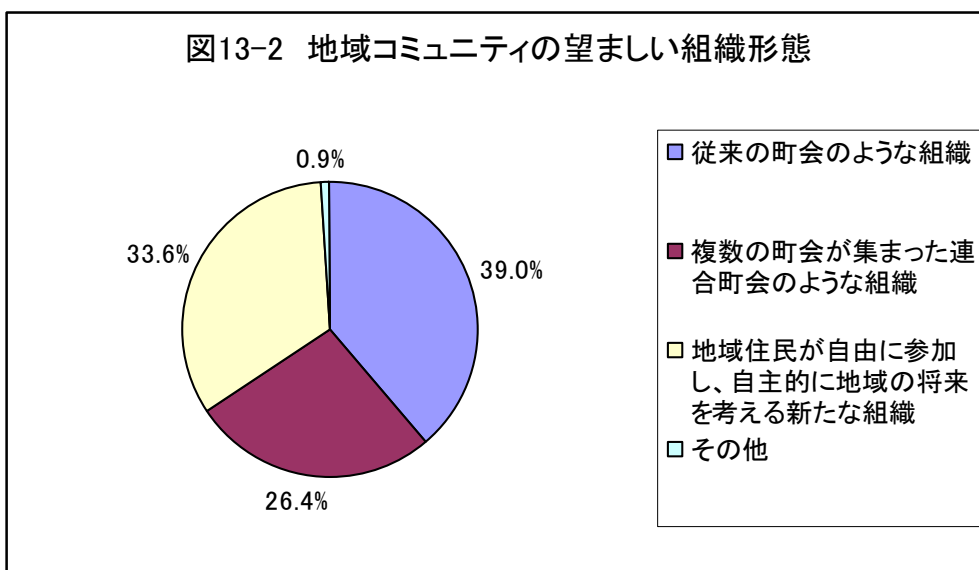
問13 (1) 今後、地域の活性化を考えていくうえで、地域コミュニティの単位としてふさわしいと思う地域の範囲（広さ）はどのぐらいと考えますか。1つお選びください。

これからの地域の活性化のためにどの程度の範囲で活動するべきかを尋ねたこの質問に対して、「現在の町会程度」と回答したのは45%、「小学校下（校区）程度」と回答したのは45.4%でした。一方、「中学校下（校区）程度」と回答したのは8%、「その他」と回答したのは1%であり、両者を足し合わせても10%未満であることから、町会そして小学校下（校区）の範囲が地域コミュニティとして機能していることがわかります。



問13 (2) では、地域コミュニティの望ましい組織形態はどのような形と考えますか。1つお選びください。

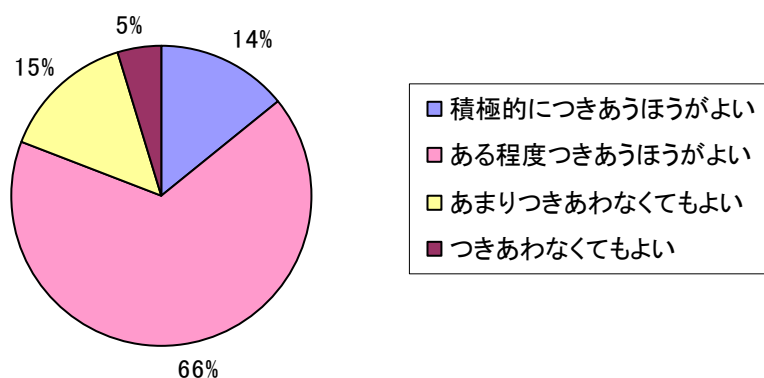
この質問に対して「従来の町会のような組織」と回答したのが39%と最も多く、現在の町会組織を肯定していると言えます。しかしながら下のグラフからもわかるように、「地域住民が自由に参加し、自主的に地域の将来を考える新たな組織」と回答したのが33%、「複数の町会が集まった連合町会のような組織」と回答したのが26%となっています。現在の町会組織をより発展させたいという意見が含まれているようにも感じられます。回答に明確な差が出ているとは言いがたい状況です。



問14(1) あなたの住まいの地域における外国籍住民と日本人住民とのつきあいについて、どのようにお考えですか。あてはまるものを1つお選びください。

「ある程度つきあうほうがよい」と回答した人が最も多く66%を占めており、「積極的につきあうほうがよい」と回答した人と合わせると全体の80%を占める結果となりました。回答者の多くは、外国籍住民と日本人住民は何らかの形で地域の中でつきあっていくほうがよいと考えていることがわかります。

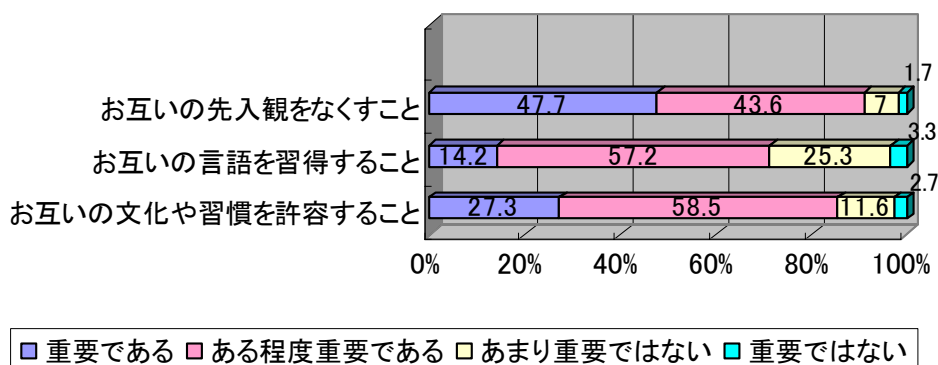
図14-1 外国籍住民と日本人住民との望ましいつきあい



問14(2) 今後、地域で外国籍住民と日本人住民とのつきあいを深めていく場合、以下にあげることはどのくらい重要だと思いますか。a~cのそれぞれに、次の1~4の中から1つお選びください。

「重要である」および「ある程度重要である」を合わせると、「お互いの先入観をなくすこと」については91%、「お互いの文化や習慣を許容すること」については86%、「お互いの言語を習得すること」については71%となります。この結果から、外国籍住民と日本人住民とのつきあいにおいては、言語の習得という実用的なことよりも、接する態度のほうが重要であると考えている人の割合が多いことがわかります。

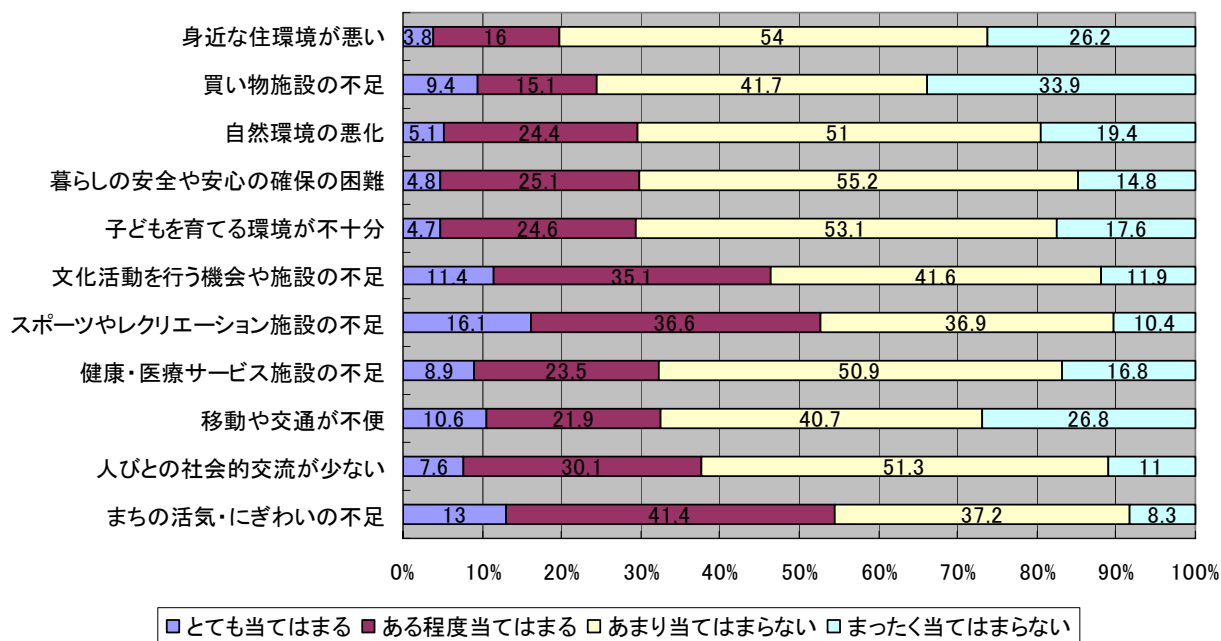
図14-2 外国籍住民と日本人住民とのつきあいで重要なこと



問15 (1) あなたの住んでいる町会の区域では、現在困っていることとして、以下にあげるものはどの程度当てはまりますか。a～kのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

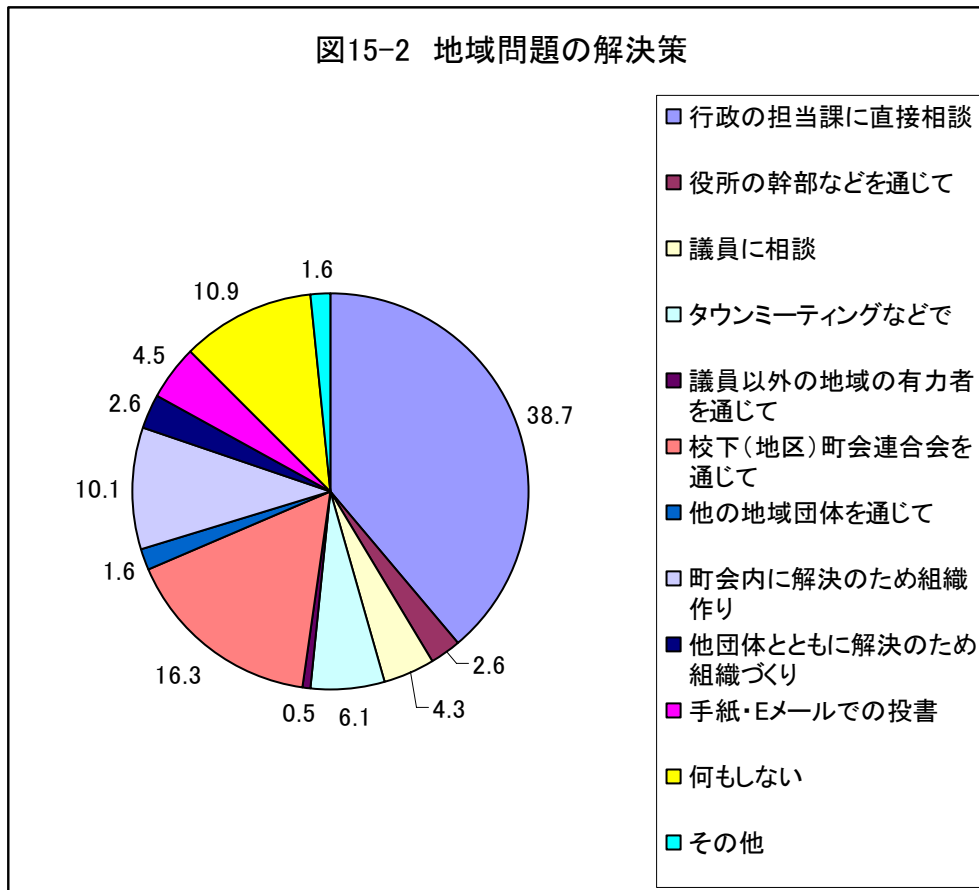
町会の区域内では現在、どのようなことが問題視されているのでしょうか。今回の調査では、まちの活気・にぎわいの不足、スポーツやレクリエーション施設の不足をあげる人が半数を超え、その他ほとんどの項目も3割程度の人が問題視していることが明らかになりました。地域生活をよりよいものにしていくために、これからも市民と行政双方の努力が求められていると言えます。

図15-1 町会地域で現在困っていること



問15(2) (1)のような問題が発生し、地域で解決策を考えるとときに、あなたは、次のどの考え方に賛成ですか。1つお選びください。

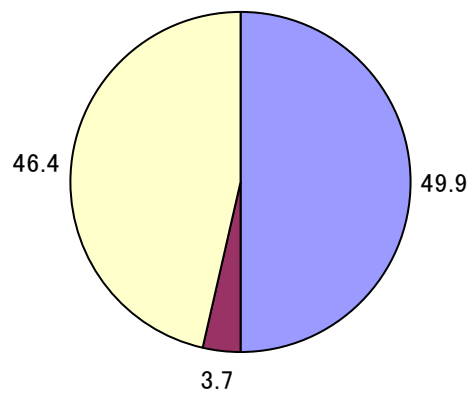
(1) であげられたような地域問題の解決策として、行政の担当課に直接相談する方法を選ぶ人が4割と最も多くなっています。他にも、町会連合を通じての働きかけ、町会内に解決のための組織作りという方法を選ぶ人が他の項目に比べて多くなっています。逆に何もしないという回答は全体の1割程度と少なく、多くの人々が地域問題を解決することの必要性を感じていることが分かります。



問16 次の3つの考え方について、あなたはどれに賛成ですか。1つお選びください

人付き合いにおいて、どのような考え方をしている人が多いのかを知ることで、これからの地域コミュニティ作りの参考になります。今回は、お互いの和を大切にしたいという考え方と、お互いの考えが違って話し合っ一致点を見つけないという考え方がそれぞれ半数近くを占め、自分の考えに忠実でありたいという意見は少数にとどまりました。このことから、意見が違う人とも共存していきたいという思いがある人が多いことが分かります。

図16 3つの考え方

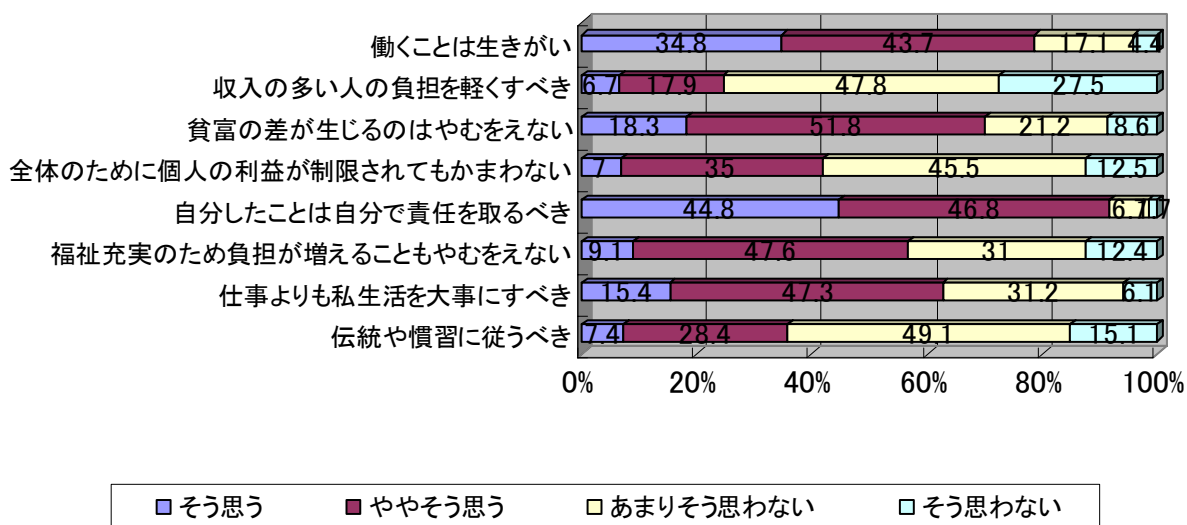


- 人に自分の意見を押し付けたりせずに、お互いの和を大切にしたい
- 他人のことよりも、自分の考えに忠実でありたい
- お互いの考えが違った場合には、話し合っ一致点を見つけない

問17 あなたは次の考え方についてどのように思いますか。a～hのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

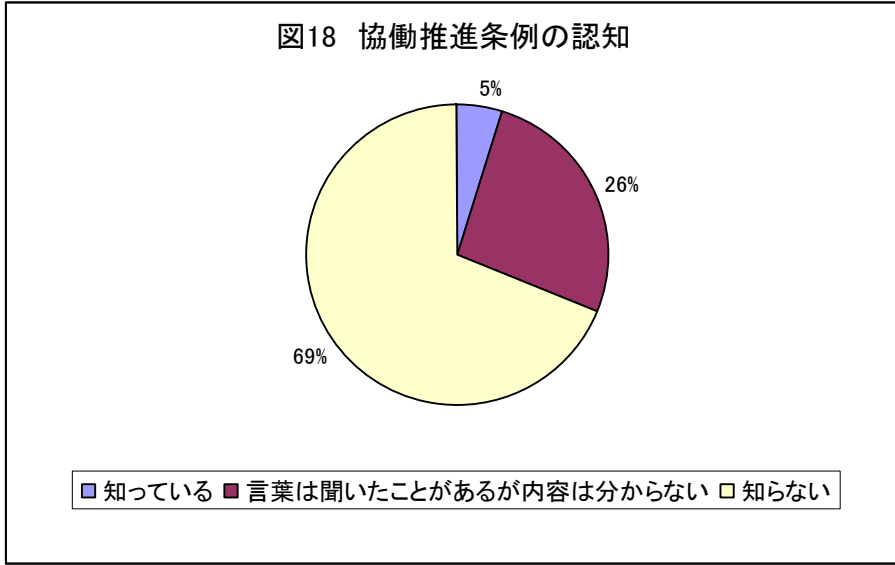
問17では、いくつかの意見をあげ、社会に関するさまざまな意識を探っています。「自分のしたことは自分で責任をとるべき」という意見に対して9割を超える人の支持が集まっており、注目されます。「収入の多い人の負担を軽くすべき」という意見は最も支持者が少なくなっています。それに対して、「福祉は充実させるために、個人の負担増もやむをえない」という意見に関しては、ほぼ2分していますが、賛成派のほうが若干多くなっています。

図17 社会に関する意見



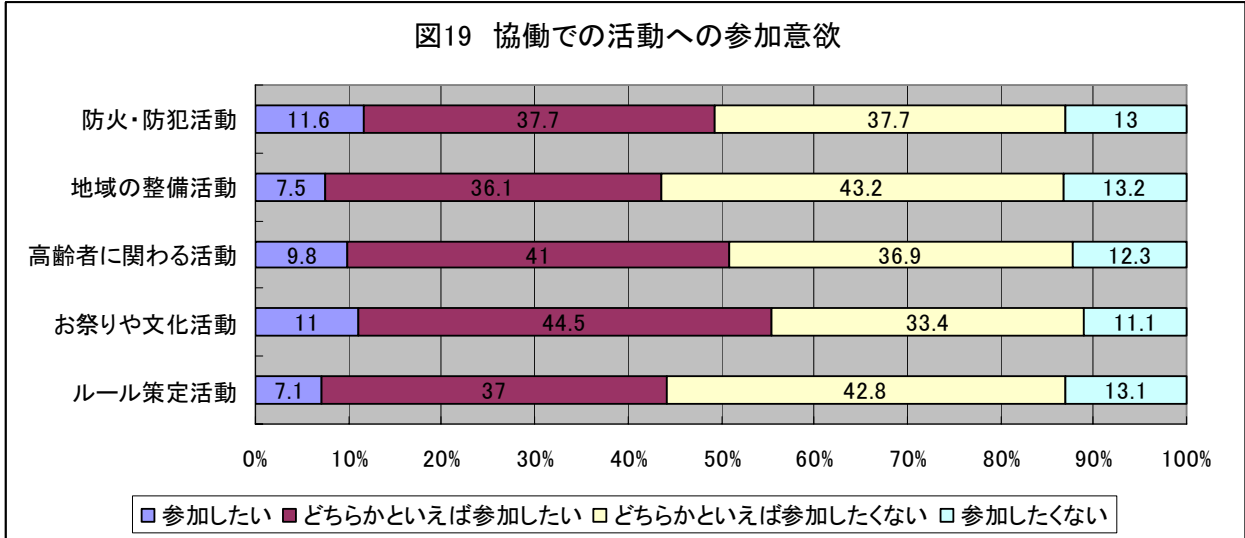
問18 金沢市では市民が積極的に市政運営に参加し、市民と行政が協力し合いながらまちづくりをすすめる「協働のまちづくり」をめざして協働推進条例（平成17年4月施行）を制定し、各種事業を展開していますが、この条例をご存知ですか。「協働」とは、市民および行政がそれぞれ自らの果たすべき役割を自覚して、対等の立場で協力し合い、補完し合うことを言います。

「協働推進条例」を「知っている」と答えた方は5%、「知らない」と答えた方は、69%でした。「言葉は聞いたことはあるが内容はわからない」と答えた人を含めても、「協働推進条例」の認知度は約3割と、条例が金沢市民にはあまり浸透していないという結果が出ました。協働を進めるにあたって、まずは条例の周知が必要だと思われます。



問19 市民と行政の協働で以下のような活動を行う時、あなたは参加したいと思いますか。a～eのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

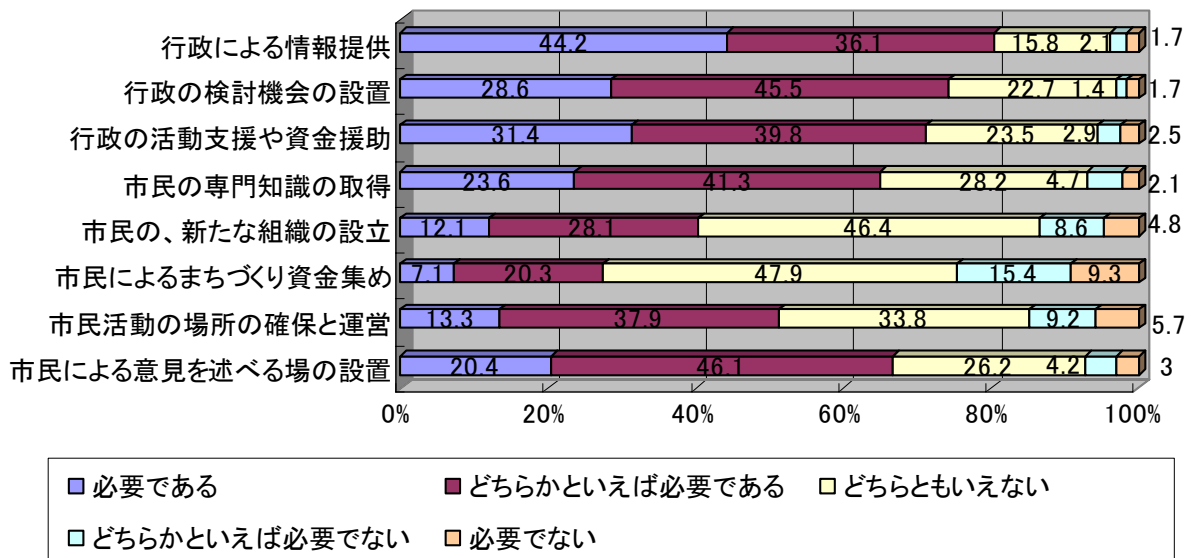
「高齢者に関わる活動」「お祭りなどの文化活動の開催」の2項目への参加意欲は、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」をあわせると、それぞれ5割を超えました。しかしながら「地域の道路や広場、公園などの整備や管理」活動は、参加意欲が最も低く、43%でした。今後「協働推進条例」の認知度が高まるにつれ、変化の見られる項目かもしれません。



問20 市民と行政とが協働でまちづくりをすすめるために、以下のことが必要だと考えますか。
a～hのそれぞれに、次の1～5の中から1つお選びください。

行政による情報提供の項目について、「必要である」「どちらかといえば必要である」とする回答が8割を超えています。一方で、市民によるまちづくり資金集めの項目では、消極的な回答が目立ちました。全体的な傾向を見ると、行政に対して市民のまちづくりへの参加を促すような政策が求められているといえるでしょう。

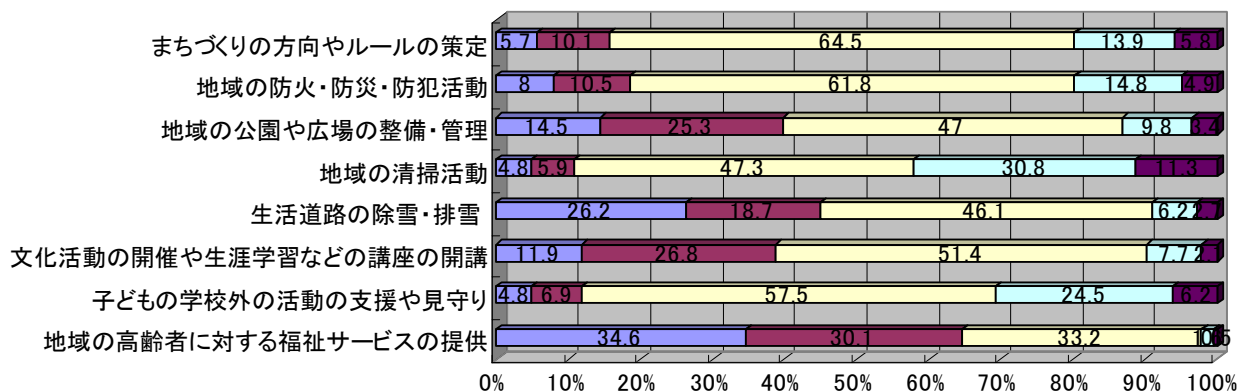
図20 まちづくりに必要だと考える活動



問21 あなたは、以下にあげるような事柄は、市民と行政どちらが責任をもって行うことが望ましいと考えますか。市民が行うという場合とは、民間活力や市民の自助努力による活動を指します。a～hのそれぞれに、次の1～5の中から1つお選びください。

文化・学習に関する項目、除雪・排雪、公園整備、防火・防災の項目では、「行政と市民の協働で行う」と答えた人が最も多くなっています。また、高齢者への福祉サービスの項目では、「行政が行う」と「どちらかといえば行政が行う」を合わせると、6割以上と多くなっています。一方で、子供に関する項目と、清掃の項目では、「市民が行う」「どちらかといえば市民が行う」を合わせると、3～4割と、他の項目より多くなっています。

図21 市民と行政どちらがやるべきか

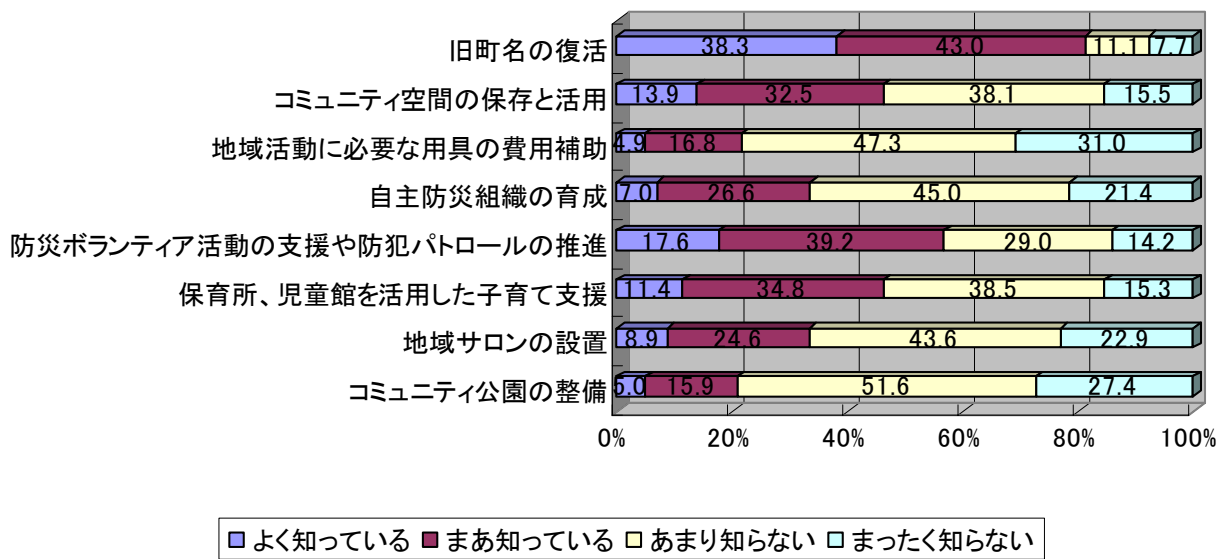


■ 行政が行う ■ どちらかといえば行政が行う □ 行政と市民の協働で行う □ どちらかといえば市民が行う ■ 市民が行う

問22(1) あなたは、以下にあげる市の事業を知っていますか。a～hのそれぞれに、次の1～4の中から1つお選びください。

この質問は、金沢市のコミュニティ事業に対する、市民の認知度をはかるために設けました。最も認知度が高かったのは旧町名復活事業であり、約8割の人々が認知しています。逆に、認知度が低かったのは、地域活動に必要な用具などへの補助事業やコミュニティ公園の整備事業です。この事業の認知度が低い理由としては、まちづくりに積極的に取り組む人々や、地域活動に積極的に参加する人々にしか認知されない事業であるためと思われます。

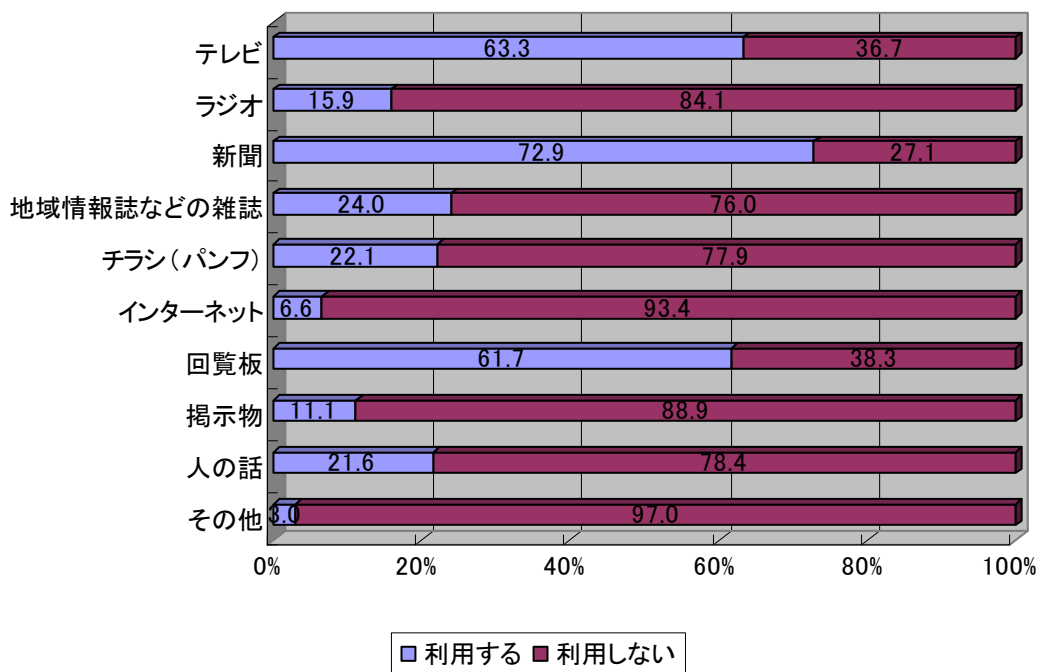
図22-1 市のコミュニティ事業に対する認知度



問22(2) あなたはふだん、(1)のような市の事業について、どこから情報を得ていますか。
あてはまるものをすべてお選びください。

この質問は、金沢市の事業に関する情報の入手手段を知るために設けました。
結果は、新聞、テレビ、回覧板を利用するという回答が多く、これら3つに回答が偏っています。全国レベルの情報ではなく、金沢に密着した情報を入手できるという点では、新聞が量・質ともに優れており、また、テレビは気軽に情報を入手できる点が優れていると考えられます。回覧板については、町内レベルでの地域情報を確実に伝えることのできる限られた手段であるといえます。

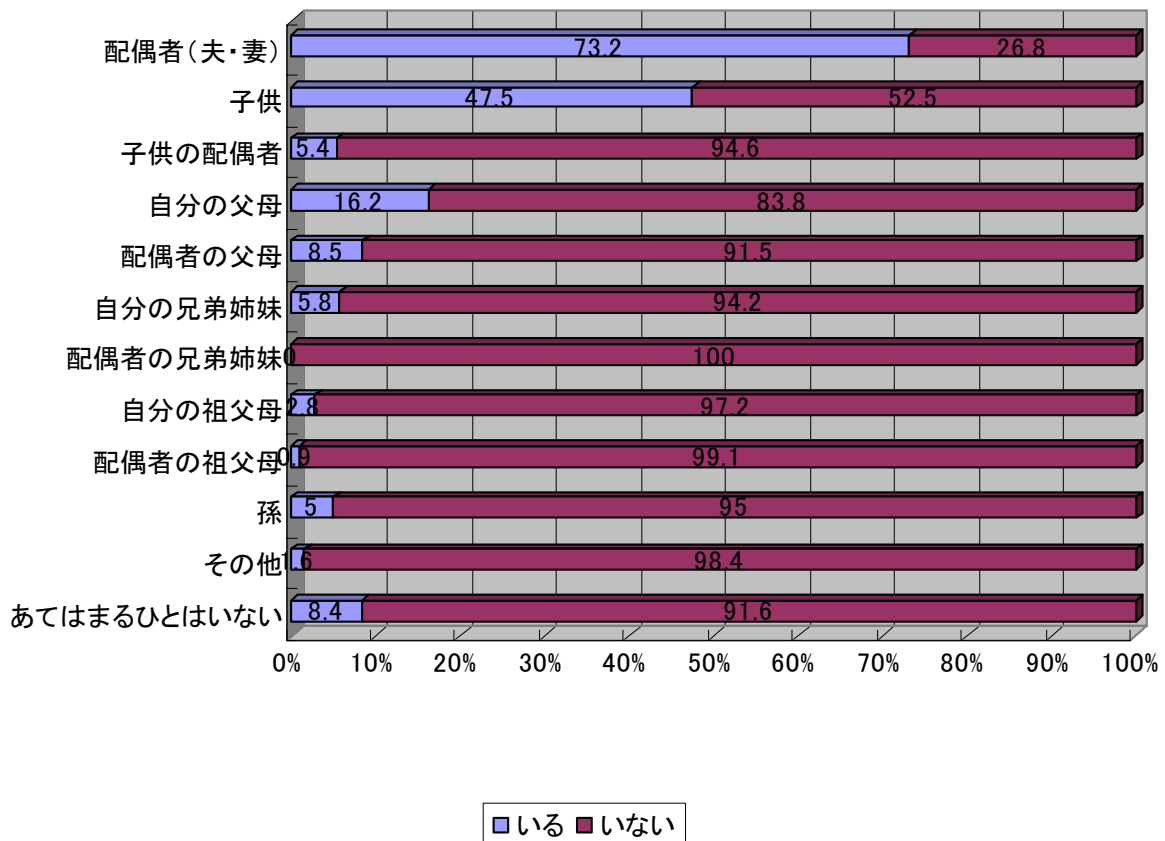
図22-2 市の事業に関する情報を何から得ているか



問29 この中から生計をともにしているご家族をすべてお選びください。

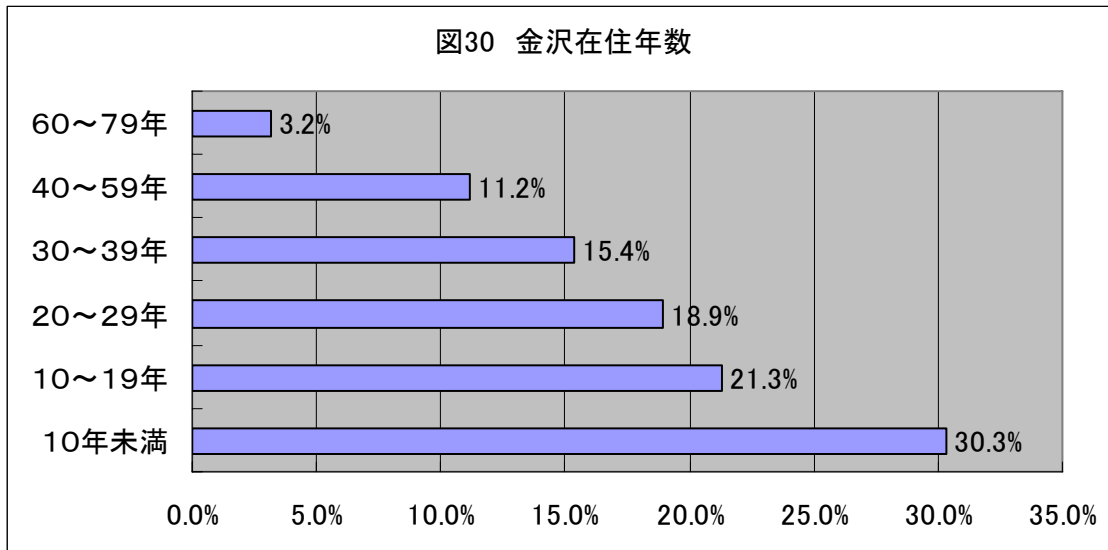
配偶者と生計をともにしている人が7割を超えており、結婚している人がとても多いことがわかります。そして約半数の人が、子供がいると回答しています。配偶者の兄弟姉妹と一緒に暮らしている人は一人もいませんでした。

図29 生計をともにしている家族



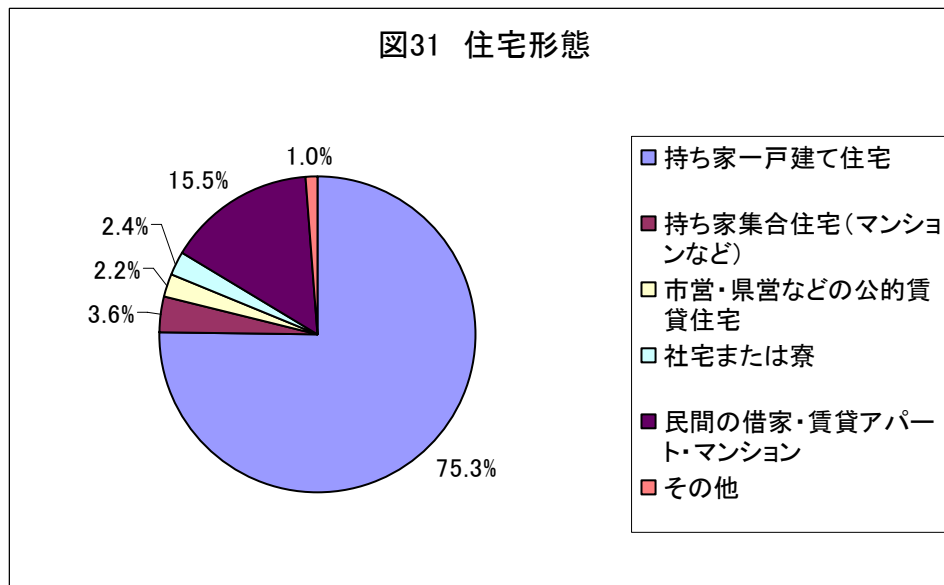
問30 あなたはいまの住所に住んで、今年で何年目になりますか。

在住20年未満の人が回答者の半数を超えていることから、金沢に移住した人が多いということが見受けられます。



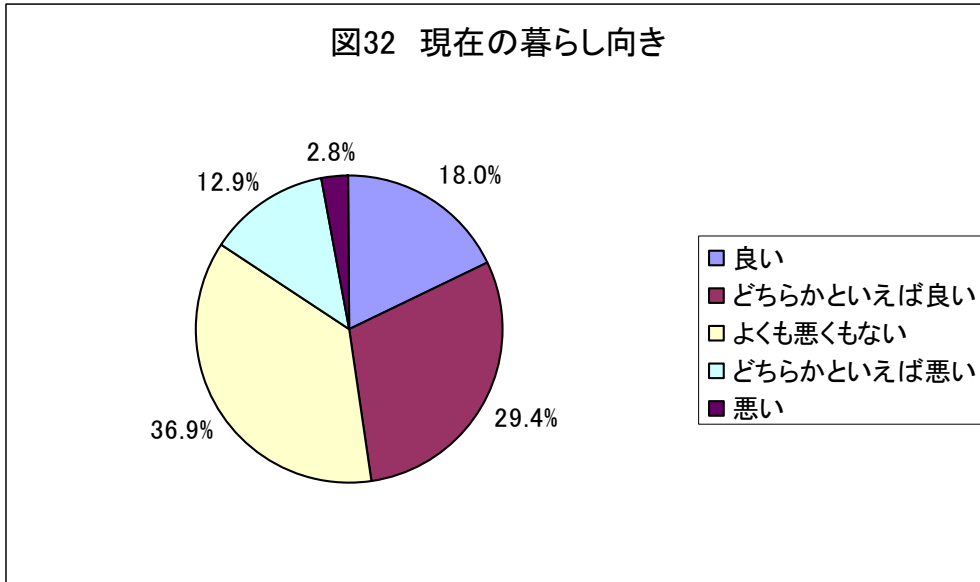
問31 現在のお住まいは次の中のどれですか。1つお選びください。

7割を超える方が持ち家一戸建て住宅に住んでいます。次に多いのは民間の借家・賃貸アパート・マンションであり16%を占めています。その他の項目はそれぞれ1～4%であり、比率からすると少数となっています。



問32 あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。1つお選びください。

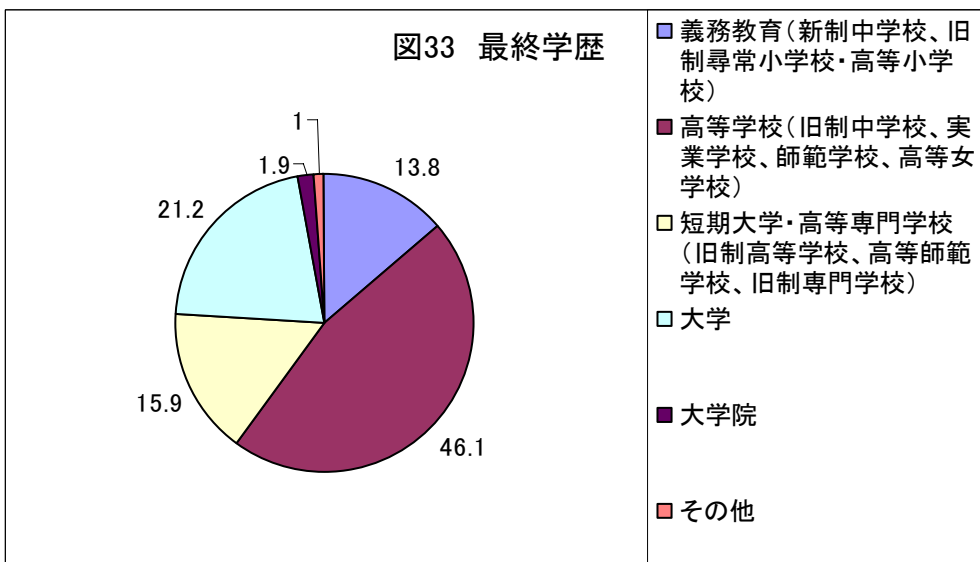
現在の暮らし向きについて、「良くも悪くもない」と答えた人がもっとも多くなっています。また、「良い」と「どちらかといえば良い」と答えた人を合わせると5割近くで、「悪い」、「どちらかといえば悪い」を合わせた人の、2倍以上も多くなっています。



問33 あなたが最後に卒業した（または現在通っている）学校は、次のどれにあたりますか。

1つお選びください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

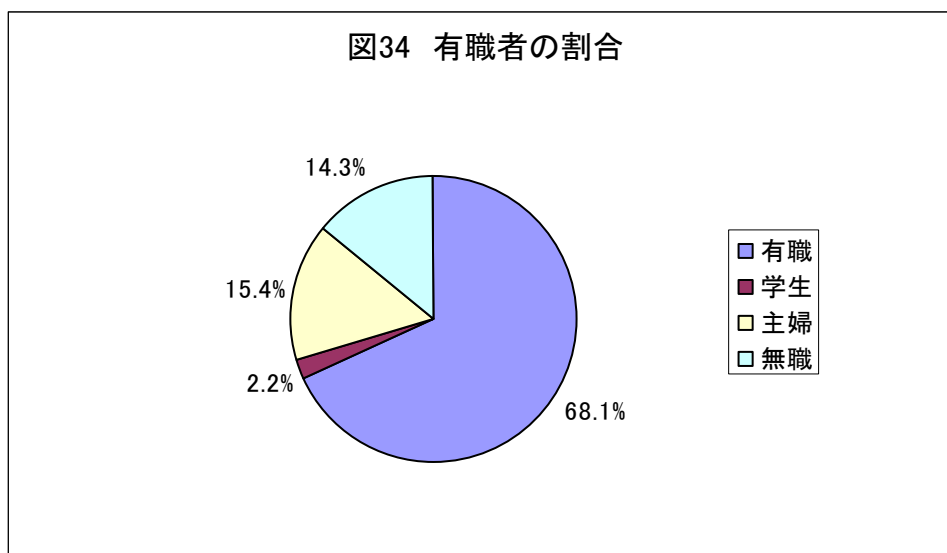
最終学歴は、高等学校の人が4割強と最も多く、ついで2割程度が大学、1割強が短期大学・高等専門学校、義務教育という結果が得られました。



問34 あなたの、現在のご職業についてお聞きします。なお、ここでは、職業とは継続して行なっている収入をともなう仕事とします。

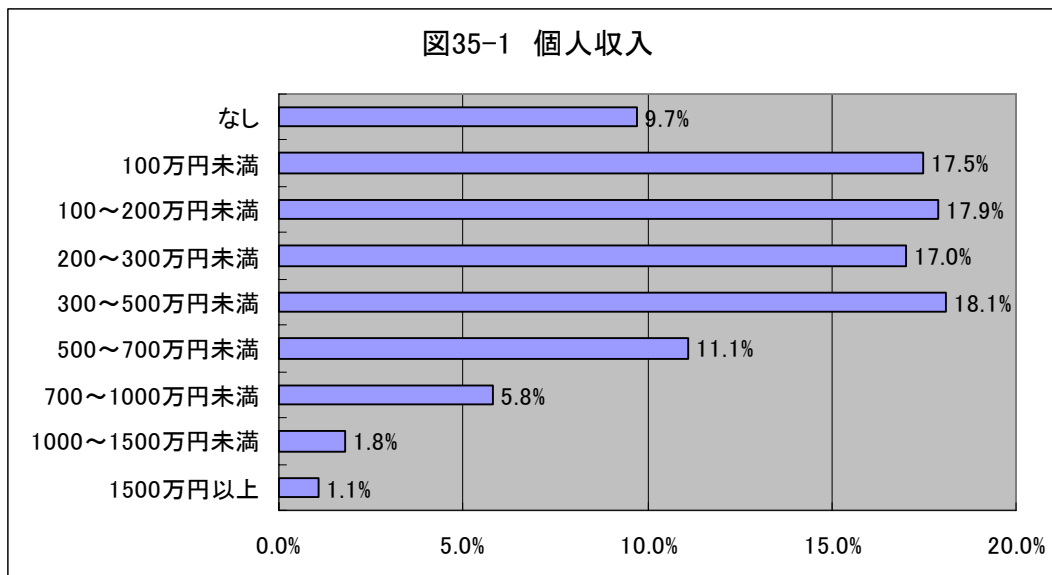
a. 現在、ご職業をお持ちですか

金沢市民における有職者の割合を調べたところ、「有職」と回答したのが68%とほぼ7割弱と、大きな割合を占め、無職の14%という値とは大きく差が開いています。しかし、常時雇用されている一般従業員がすべてというわけではなく、臨時雇用者やパートそして派遣社員も含まれています。



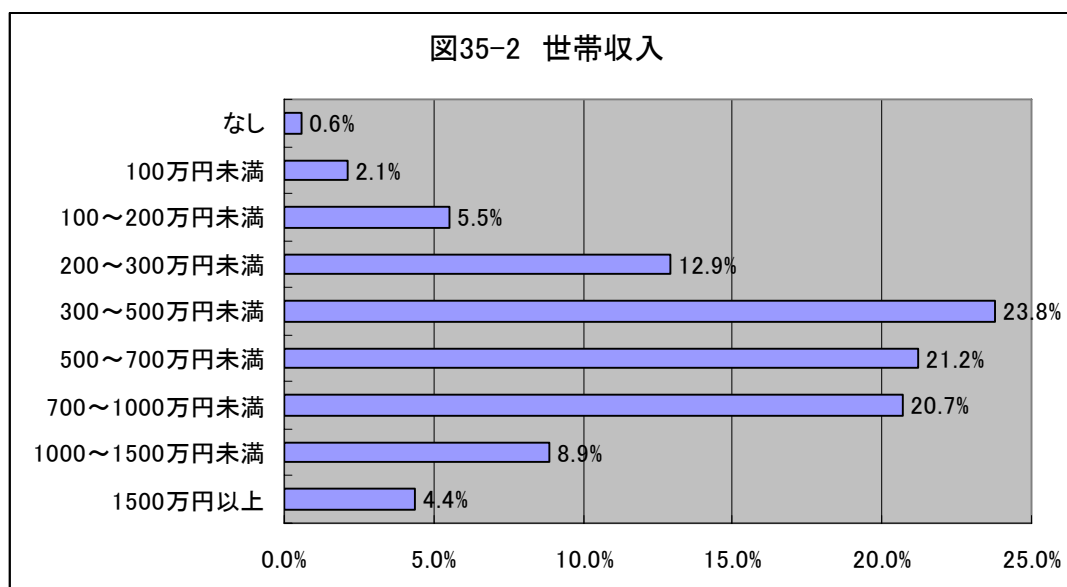
問35(1) 過去一年間のあなた個人の収入は、税込みでおよそどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めて、お答えください。

問35は収入を問うものとなっています。(1)では、回答者個人の収入を問いました。個人収入では300～500万円未満が最も多い回答となっています。また、収入が500万円未満の回答者が全体の8割程度を占めています。



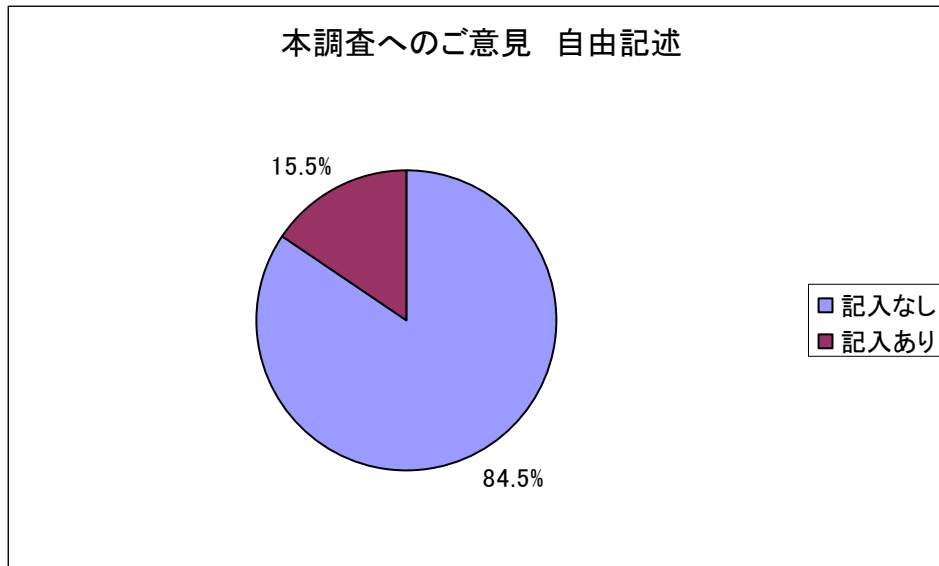
問35(2) 過去一年間のあなたのご家庭（生計を共にしている家族）の収入は、税込みでおよそどのくらいでしょうか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

(2)では回答者の世帯収入を尋ねました。世帯収入で最も多い回答は、300～500万円未満となっています。また、全体の7割弱を300～1000万円未満という回答が占めました。1000万円以上の収入がある家庭は1割程度にとどまっています。



本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

自由記述欄には、約2割の方からご意見を頂きました。記述の内容から、本調査に熱心に回答・協力して下さったことが分かります。



記述の内容を大別すると、①調査に対する意見・感想、②コミュニティに関する意見・要望、③その他に分けることができます。一番多かったのは、調査に対する意見・感想です。

①調査についての意見として、「福祉関係の問題、先行不透明に対する不安などについての調査が欲しい」、「市民のコミュニティを一番阻害しているのは何か、誰かを調査すべき」、「多文化共生の観点からの質問が少ない」といったものがありました。

感想としては、「市民のために調査してくれてありがとう」という肯定的なものから「面倒だった」、「質問がわかりにくかった」という否定的なものまでありました。

②「コミュニティに関する意見・要望」については、町会に関するものが多く、次のような記述がありました。「町会での行事はすべて役員のみで行われ私には関係ない。とてもさみしい」、「町会に対する意見は一個人が言っても何の反応もない。町会は役員のみで進行している」といった町会運営に関わる意見や、「町会活動は大変重要。積極的に参加したいが、仕事で休日はほとんどなく実質参加できない状態」、「町会活動は、仕事を持ち子育てをしている女性にとっての負担はとても大きい。毎日の生活だけでも大変なのに役員は重荷」といった自身の町会参加に関する記述がありました。

他には、「5人の子供を育てる中で一番困ったのは、子供会の役員、地域の小学校の役員が回ってくること。出産予定の時期にラジオ体操の世話、乳幼児が3・4人いるのに早朝の交通安全指導や夜の会合は核家族では無理。それからは子供会の行事には参加せず、2人目からは国立の小学校に通わせた。子育ての1番大変な時でなかったら役員はいくらでもするが、そのときは地域社会は子沢山の家に冷たいと思った」、「地域が大切という一方で学校の選択が自由になるなど、地域の子供たちはバラバラになりつつある。その結果、どうなっていくのか先行不透明」といった、今後考えていかなければならないと思われる意見もありました。